

ミヤマビャクシン ヒノキ科

Juniperus chinensis L. var. *sargentii* A. Henry

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



琴浦町 2012.4.29 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は急峻な岩場3カ所のみで生育個体数もわずか。生育環境が厳しく、分布拡大は見込めず絶滅のおそれは高い。

■**特徴**：岩崖に生育する常緑低木でビャクシンの変種。幹は岩をはい、枝は斜上して高さ50cm程度になる。稚樹は針葉、成木は鱗片葉となる。県内の生育地は2000年代以降に確認された若桜町赤倉山と琴浦町勝田ヶ山、大山町甲ヶ山の大岩壁のみ。甲ヶ山は今回新たに見つかった。いずれも状況確認が困難な場所である。

■**分布** 県内：若桜町、琴浦町、大山町。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：岩崖地の自然植生保護と採取防止

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：40, 52, 53.

執筆者：矢田貝繁明

クロベ ヒノキ科

Thuja standishii (Gordon) Carrière

鳥取県：絶滅 (EX)

環境省：—



島根県 2012.8.9 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：本州中部以北に自生する常緑針葉樹。県内では以前に鳥取市佐治町の標高800m付近の岩角地にヒノキに混じって自生していた。地元ではこれを伐採し建築材として民家の土台に利用していたという。地元での聞き取りをもとに2000年に残存木を探す野外調査が行われたが、過去にあったとされる場所ではみつからなかった。その後の調査でも現在まで見つかっていない。

■**特徴**：常緑高木。樹皮は赤褐色で縦裂し、薄くはがれる。葉は十字対生で大きさはヒノキとアスナロの中間的。葉裏面の気孔線は白くならない。

■**分布** 県内：絶滅。 県外：本州（中部以北に多産）、島根県隠岐、岡山県、四国。

■**文献**：78.

執筆者：永松 大

イチイ イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc. var. *cuspidata*

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



日南町 2020.7.25 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内での確実な自生は日南町内のみで個体数はわずか。寿命の長い樹木のためすぐに絶滅する危険性はないが、状況には注意が必要である。

■**特徴**：高さ20mになる常緑高木。葉は線形で長さ20-30mm。雌雄異株。秋に杯状で赤い仮種皮をつけ食べられるが、内側の種子は有毒。船通山のイチイは積雪と強風のために幹頂部がひしゃげて横に伸びている。キャラボクと比べれば樹高は高いが、明確な区別は困難にみえる。北海道や東北には多いが、西日本では山岳地に孤立状に生育する。庭木としては沖縄以外の日本全国に植えられている。細工しやすい良材で神官が使う筈に使われたことで有名。

■**分布** 県内：日南町（船通山、岩樋山）。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：岩崖地の自然植生の保護と採取禁止。

■**特記事項**：国指定天然記念物「船通山のイチイ」。

■**文献**：30.

執筆者：永松 大

キャラボク イチイ科

Taxus cuspidata Siebold et Zucc. var. *nana* Hort. ex Rehder

鳥取県：その他の重要種 (OT)

環境省：—



大山山頂部 2021.7.15 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では大山と氷ノ山の山頂部に隔離的に自生する。大山の群落は分布の南西限にあたり群落規模は最大で、国の特別天然記念物に指定されている。

■**特徴**：日本海側の多雪山地に生育する常緑の針葉低木。イチイの変種。幹が上に伸びて高木となるイチイと比べて、幹は多分枝して匍匐、個体は横に広がり高さ2.5 m程度。冬季には積雪保護が必要といわれる。葉は2列にならぶイチイと異なりらせん状につく。大山9合目では純群落状を呈するが、氷ノ山ではチシマザサの密な群落の中に個体が点在する。

■**分布** 県内：大山、氷ノ山。県外：本州日本海側（秋田県—鳥取県）。

■**保護上の留意点**：大山、氷ノ山の山頂部自然植生の保護。

■**特記事項**：国指定特別天然記念物「大山のダイセンキャラボク純林」、鳥取県指定天然記念物「氷ノ山のキャラボク群落」、国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県の県木。

■**文献**：90.

執筆：永松 大

ジュンサイ ジュンサイ科

Brasenia schreberi J.F.Gmel.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2019.6.30 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地が少ないうえに、近年山間部や都市近郊の水田耕作放棄が進み、生育に適したため池が減少している。

■**特徴**：ため池に生育する暖帯性の多年生浮葉植物。地下茎は水底をはい、節から水中に茎を伸ばし、葉は水面に浮遊する。浮葉は、長柄の先端につき径約10 cmで全縁、裏面は帯紫色。若芽、葉柄、葉裏は粘物質に覆われている。花期は6-8月、水面上で開花する。新芽は食用として採取されることがある。鳥取市内では防災上の観点からため池の取り壊しがすすみ、ジュンサイの生育地がほとんどなくなっている。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、佐治町）、倉吉市、伯耆町、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ため池の保全管理、ヌートリアによる食害防止。

執筆：矢田貝繁明

コウホネ スイレン科

Nuphar japonica DC.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2018.5.28 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育に適した水環境が減少し、県内での生育地は点在するのみ、生育個体数も減少している。ため池などの残った生育地でも、周辺の樹木による被圧やヨシの繁茂により減少している。

■**特徴**：ため池や用水路内の泥質地に生育する抽水性の多年生草本。地下茎は横走し、葉を束生する。水上葉は大型の広卵形、革質で光沢がある。水中葉は広線形。花期は6-9月で萼片5枚が黄色く花弁状となる。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市、福部町、気高町）、倉吉市、北栄町、大山町、南部町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水湿地の保護、ため池の管理保全。

執筆：矢田貝繁明

ヒツジグサ スイレン科
Nymphaea tetragona Georgi var. *tetragona*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2016.7.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内のため池やため池跡地に生育するが、水田の耕作放棄が進んだことによるため池の減少やため池水位の低下により生育適地が減少している。

■**特徴**：ため池や水の溜まった湿地に生育する多年生浮葉植物。地下茎は太く短い塊茎，葉は叢生する。浮葉は楕円形，基部は深く切れ込む。花期は6-10月で，花は茎頂に1個つき白色で水面上に咲く。園芸用のスイレンが持ち込まれることで自生のヒツジグサが圧迫される場合もある。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市（河原町，佐治町），八頭町，大山町，南部町，伯耆町，日野町，日南町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ため池の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ハンゲショウ ドクダミ科
Saururus chinensis (Lour.) Baill.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



八頭町 2021.6.20 / 撮影：米澤朋子

■**選定理由**：乾田化や用水路のコンクリート化等で里山から半湿地が減少し，自生地が失われ減少している。山間水湿地の自生群落は周辺の大型草本が入り込み，個体群が縮小傾向にある。

■**特徴**：平地から低山地の湿地，自然性の高い用水路，山間の水湿地に群生する多年草。臭気がある。地下茎は太く横走し，茎は高さ60-100cmで直立する。葉は卵形で基部は心形，花期は6-8月，小さな白い花を穂状に多数つける。花のころ，上部の葉は白くなる。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市（旧市，福部町），八頭町，湯梨浜町，北栄町，大山町，米子市，境港市，南部町。県外：本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：湿地，自然性の高い用水路，水湿地の保全管理。

■**文献**：108。

執筆：米澤朋子

マルバウマノスズクサ ウマノスズクサ科
Aristolochia contorta Bunge

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市国府町 2015.8.10 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の自生地はごく限られている。近年，耕地の利用放棄による自然遷移，あるいはタイミングの悪い草刈りやシカの食害等で花や実がつかない場所が増えており，自生地と個体数が減少している。

■**特徴**：水田や畑，山すそなどに生育するつる性の多年生草本。葉は卵状三角形，葉は紛白色，長さ7cm程度で先端は円頭から鈍頭，基部は浅い心形。花期は7-8月，葉腋から数個の花が出る。花はラッパ状で黄緑色，萼片が花弁状になる。果実は卵状球形で長さ3cmほど。県内では田畑周辺の山すそに多く，毎年草刈りがされるような場所に生育する。攪乱には比較的強く継続して出現する傾向がある。国府町と智頭町内の山すそ水田畦畔の生育地では稲作放棄で雑草が生い茂り絶滅した。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市，国府町），大山町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：生育地の環境保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ウマノスズクサ ウマノスズクサ科

Aristolochia debilis Siebold et Zucc.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子市 2021.8.22 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：多産しているような植物だが、確認されている生育地は少ない。ジャコウアゲハ幼虫の食草で食害にあっている。

■**特徴**：無毛のつる性多年生草本。全草に粉白を帯び新芽は暗紫色。茎は細く、高さ 100–140 cm 内外に伸びて分枝する。葉は三角状狭卵形で長さ 4–7 cm、幅は広狭様々な変化がある。鈍頭で基部は心形。基部両側は耳状で柄は長さ 8–20 mm。花期は 6–8 月。花は長さ 3–4 cm、黄緑色で葉腋に 1 個つき花柄は長さ 2–4 cm。萼筒は細くやや上方に湾曲し、基部は球形にふくらむ。舷部は斜めに切られたような形で上に向かい狭三角形、末端の鈍い鋭尖頭。両縁は少し反り返り舷部内面は紫褐色。蒴果は球形で長さ 1.5 cm。

■**分布** 県内：智頭町、倉吉市、大山町、米子市、日吉津村、南部町、日野町。県外：本州（関東以西）—九州。

■**保護上の留意点**：田畑の周辺や河川に生育しており、草刈りや除草剤散布に注意。

■**文献**：84.

執筆者：藤原文子

フタバアオイ ウマノスズクサ科

Asarum caulescens Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



三朝町 2021.4.21 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内内陸部に広く分布するが自生地は少ない。シカ食害の影響が甚大。自生地の崩落や開発により、消滅した地点がある。

■**特徴**：山地の林床や谷沿いに生育する夏緑性多年生草本。根茎は円柱形で長く地上をはい、ところどころに根を出す。葉は 1 年生で薄い。花は暗赤褐色でつぼ型。花期 3–5 月。同科のウスバサイシンと葉がよく似ており同定に注意。

■**分布** 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、三朝町、日野町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地森林の保護、保全。林道開設や人工林伐採時の注意。

■**文献**：108.

執筆者：井上喜美子

ヒメカンアオイ ウマノスズクサ科

Asarum fauriei F.Maek. var. *takaoui*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2020.4.26 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：自生確認は県内西部に数カ所のみで個体数も少ない。自生地では株数はやや安定しているが、開花個体は減少している。

■**特徴**：山地の谷沿いや社叢のやや暗い林地に生育する常緑多年生草本。葉はふつう 2 枚で長柄がある。葉は長さ約 5 cm、卵円形鈍頭で基部は深心形、薄い斑紋状模様をもつ。花期は 2–4 月、積雪の中で開花する。花は広い筒型で萼片が花弁状になり三角形に 3 裂。林道沿いはササの刈り払いによって個体数安定、水路沿いは減少がみ。他の植物に被圧されている生育地もある。ササ刈りがされなくなった生育地では個体数が激減した。

■**分布** 県内：日南町、日野町。県外：本州（中部以南）、四国。

■**保護上の留意点**：採取防止、山地谷沿いの森林・社叢の林床管理。生育地でのチマキザサ刈り取り、農業用水路の整備。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

ホソバテンナンショウ サトイモ科
Arisaema angustatum Franch. et Sav.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



智頭町 2015.5.22 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部のブナ帯域で発見されているが個体数は少ない。岡山県内の集団とともに現在のところは分布西限にあたり、分布が限定されるようなら VU 相当の可能性がある。

■**特徴**：落葉広葉樹林内に生える多年生草本。葉と花序は 4-5 月。葉はふつう 2 枚，偽茎部は葉柄部より長く開口部は襟状に広がる。葉身は鳥足状に分裂し小葉は 10 個以上となることが多い。披針形で両端は尖り細鋸歯がある。花序柄は葉柄とほぼ同長または長く，仏炎苞は緑色。内面は粉白色を帯びず縦の白筋がある。筒部は円筒形で耳状に張り出し，舷部は筒部より短く卵形，内面には隆起する細脈がない。花序付属体は淡緑色，直立，あるいは上部でやや前に曲がる。県内東部に自生するウメガシマテンナンショウは仏炎苞内面が粉白色を帯び口部は狭く反曲し耳状にならない。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町。 県外：関東から中部地方東部，近畿地方，岡山県東部。

■**保護上の留意点**：落葉広葉樹林の保護。採取禁止。

■**文献**：60.

執筆者：坂田成孝

マイヅルテンナンショウ サトイモ科
Arisaema heterophyllum Blume

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU)



鳥取県内 2019.6.24 / 撮影：松本哲也

■**選定理由**：県内での現在の確認地は 1 カ所のみ。以前に船上山で撮影された写真があるが現状不明。種名のように独特な形をしているので見つかりと採取される。シカの食害があり保護の必要がある。

■**特徴**：落葉広葉樹林内の明るいところに生える多年生草本。高さ 1 m 程度になる。花期は 6 月。葉身は鳥足状に分裂し小葉は 20 枚程度，線形から長楕円形で先は急にとがり，頂小葉は小さい。花序は葉が展開した後，偽茎部の開口部から出る。仏炎苞は緑色，筒部は細長く，舷部は卵形。花序付属体は無柄で鞭状に細まり，苞外に出て直立する。花序付属体と葉身がツルが舞うように見えることから種名がついたという。

■**分布** 県内：非公開。 県外：本州，四国，九州。朝鮮半島，台湾，中国。

■**保護上の留意点**：生育地周辺の自然林の保護。採取禁止。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：54.

執筆者：坂田成孝

ナギヒロハテンナンショウ サトイモ科
Arisaema nagense T.Kobay., K.Sasamura et J.Murata

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧 IA 類 (CR)



智頭町 2015.5.22 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地は 2 カ所のみで個体数は僅少。環境省の国内希少野生動植物種にも指定されており，自生地の積極的保護とシカの食害保護が必要。

■**特徴**：ブナ帯の林縁に生える多年生草本。高さ 30 cm ほどになる。葉と花序は 6 月。葉は 1 枚，葉柄部は偽茎部より長くなり小葉は 6 枚前後，線形一狭披針形で全縁。花序柄は葉柄部より短い。仏炎苞は葉身より早く開き，外面は緑色を帯びた紫褐色，筒部に著しく隆起する白色の縦条があり，筒部の口辺は狭く開出し，舷部の内面は紫褐色，筒部よりも長い。花序付属体は有柄で棒状，紫褐色。2021 年に智頭町自生地の森林施業にあたり現地協議が行われ，関係者間で保全措置をとることが決定された。

■**分布** 県内：智頭町。 県外：兵庫県，鳥取県，岡山県（いずれも一部）。

■**保護上の留意点**：自生地周辺の自然林の保護。ニホンジカの適正管理。採取禁止の徹底。

■**特記事項**：環境省国内希少野生動植物種指定種，鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

ミヤマムシグサ サトイモ科

Arisaema pseudoangustatum Seriz. var. *pseudoangustatum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



扇ノ山 2019.6.9 / 撮影：松本哲也

■**選定理由**：山地の落葉広葉樹林下に生える多年草。林道沿いに多く見られるため採取あるいは草刈りされる可能性がある。

■**特徴**：山地のブナ帯標高 900 m 程度から上部にみられる多年生草本。高さ 60 cm 前後。花序と葉は 7 月。鞘状葉や偽茎部の斑は紫褐色を帯びる。葉はふつう 2 枚、偽茎部は葉柄部より長く、襟状に広がる。葉身は鳥足状に分裂し、小葉は 10 枚前後、線状楕円形から狭楕円形、両端は長く尖る。仏炎苞は葉身より遅く展開し緑色。触部は筒部とほぼ同長、卵状三角形、平滑、細い白筋がある。花序付属体は淡緑色、細棒状。テンナンショウ属の典型的な形をしているので観賞用に採取される。

■**分布** 県内：県内東部、大山。県外：本州中部地方、中国地方東部。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護と採取禁止。

執筆：坂田成孝

ナンゴクウラシマソウ サトイモ科

Arisaema thunbergii Blume subsp. *thunbergii*

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2021.4.23 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は西部地域の数カ所ときわめて限定されており、生育個体数もわずかである。森林作業道の開設による直接的な破壊や観賞目的の採取圧により、個体が減少している。

■**特徴**：低山地のやや陰湿な林内に生育する暖帯性の多年生草本。高さ 30–40 cm になる。長柄の先端に 11–17 に分裂した鳥足状の葉を 1 枚つける。花期は 5 月で、仏炎苞は長さ 10–15 cm、筒部は白色で紫褐色斑があり、触部は暗紫褐色、付属体はつり糸状に長く伸び、その基部は淡黄褐色でしわがある。生育地の多くはスギの人工林内でシダ類と混生している。

■**分布** 県内：米子市、南部町。県外：本州（兵庫県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地のスギ林の急激な環境変化（伐採等）の防止、採取防止。

■**特記事項**：県内が分布北限域である可能性が高い。

執筆：矢田貝繁明

ウラシマソウ サトイモ科

Arisaema thunbergii Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H. Ohashi et J. Murata

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市青谷町 2018.4.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：特異な形状が好まれて採取される。県内東部の海岸部では道路改良、社寺林内では過剰な草刈等が生育の妨げになっている。

■**特徴**：照葉樹林下の湿ったやや暗い場所に生育する大型の多年生草本。雌雄異株。栄養状態で性転換が起こる。葉は長柄があり、鳥足状の複葉 1 枚、小葉 11–15 枚。花期 4–5 月。花は仏炎苞花で暗紫色、花軸の先（付属体）は一度高く立ち上がり垂れ下がって長いヒモ状になる。長さ 40–50 cm。果実赤熟。有毒。和名は浦島太郎の釣り糸にたとえたもの。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、八頭町、湯梨浜町、北栄町、大山町、伯耆町、江府町、日野町。県外：北海道、本州、九州。

■**保護上の留意点**：照葉樹林の保護、採取の禁止。

■**特記事項**：現時点では絶滅に至る可能性は高くない。

■**文献**：108.

執筆：井上喜美子

ムロウテンナンショウ サトイモ科
Arisaema yamatense (Nakai) Nakai subsp. *yamatense*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



若桜町 2018.5.15 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部に分布するが生育地が狭く、個体数は少ない。シカの食害がある。近年個体数の減少が顕著である。

■**特徴**：山地の落葉広葉樹林下に生える多年生草本。高さ 80 cm 程度になる。葉と花序は 5 月。葉はふつう 2 枚、葉柄部は偽茎部より短い。葉身は鳥足状に分裂し、小葉は 10 枚前後、細鋸歯がある。花序柄は葉柄部とほぼ同長、仏炎苞は葉身とほぼ同時に展開し緑色、筒部は円筒形で口辺部は狭く開出、触部は筒部より短く、広卵形で基部がやや横に張り出し、内面および縁に多数の乳頭状突起がある。花序付属体は有柄で下部はやや太く、上に向かって細まり、上部でやや前に曲がり、濃緑色の円頭に終わる。ホソバテンナンショウの仏炎苞内面は平滑。

■**分布** 県内：若桜町。県外：近畿地方および中部地方西部、中国地方東部。

■**保護上の留意点**：落葉広葉樹林の保護。ニホンジカの適正管理、食害防止。

■**文献**：60。

執筆者：坂田成孝

オオハンゲ サトイモ科
Pinellia tripartita (Blume) Schott

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



八頭町 2021.6.9 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では山地の谷間林縁部に生育するが、森林伐採にともなって消滅することが多い。生育地は少ないと思われるが、継続的な調査が必要。

■**特徴**：低山地から山地の常緑広葉樹林帯の林縁に生える多年草。葉柄にむかごをつけない。葉は数枚をつける。葉身は 3 深裂し、裂片は広卵形で短鋭突頭、長さ 20 cm まで。花期は 6-7 月。花茎は葉の上に突き出るか、ほぼ同じ高さで高さ 40 cm 程度になる。苞は緑色または帯紫色。触部は卵形で鈍頭。付属体は長さ 20 cm ほど。同属のカラスビシャクは畑などにみられ、葉は 3 小葉で葉柄にむかごをつける。

■**分布** 県内：八頭町。県外：本州（中部地方）一沖縄。

■**保護上の留意点**：山地谷間の植生保護。

執筆者：坂田成孝

ヒメザゼンソウ サトイモ科
Symplocarpus nipponicus Makino

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



日南町 2021.5.12 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地は極めて少なく個体数も少ない。生育地では他の植物に被圧されて激減している。開花個体が非常に少ない。

■**特徴**：山地の湿地に生育する多年生草本。地下茎は太くて短く、丈夫な太い根が多数できる。早春に花より先に葉が出る。内部のものは長柄がある。葉身は大型卵状長楕円形で長さ 20-40 cm。鈍頭で基部は円形—やや心形。肉厚で全縁、両面無毛で 6 月下旬には枯れる。花期は 5-6 月。暗赤褐色の小型仏炎苞花で肉穂花序は黄色。果実は翌年に熟す。苞は頭巾状で 3-5 cm、暗紫褐色。花は両性。近縁のザゼンソウとは葉の形態、花の時期や大きさなどの差異で区別ができる。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道、本州の日本海側。

■**保護上の留意点**：山地の湿地保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

ザゼンソウ サトイモ科

Symplocarpus renifolius Schott ex Tzvelev

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2016.4.20 / 撮影：上田康恵

■**選定理由**：湿地の乾燥化や泥質地の流出など環境の悪化により個体数が減少。シカ食害の影響甚大。

■**特徴**：山地の湿った林下や湿原に生育する多年生草本。葉は長さ幅とも20–40 cmと大形。花後に展開。花期4月。先端が内曲したボート状仏炎苞花で暗赤色。真正花は内穂花序につき黄色。果実はその年の夏に熟す。智頭町では以前に盗掘と思われる穴が見つかったことがある。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市，八頭町，若桜町，智頭町，倉吉市，三朝町。県外：北海道，本州（鳥取県以北）。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域谷沿いの湿地の自然植生保護。

■**特記事項**：分布南西限。国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：井上喜美子

チャボゼキショウ チシマゼキショウ科

Tofieldia coccinea Richards. var. *kondoi* (Miyabe et Kudô) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2021.8.21 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地が大山の一部に限られており，生育個体数も少ない。以前は山頂草原に生育していた記録があるが，現在は確認できない。今回，環境変化の少ない大きな群生地が確認されたため，VUに変更する。

■**特徴**：山地から高山の岩上などに生育する多年生草本。大山の標高1500 m以上の風衝草原に草丈の低いイワカガミなどと混生している。花期は8月上旬。細長い葉の間から7–10 cmの花茎を伸ばし，白色の花をまばらにつける。葯の色は紫色を帯びる。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道，本州（中部以北）。

■**保護上の留意点**：風衝草原の侵食防止対策，登山者による登山道の荒廃防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：16, 17, 116。

執筆：矢田貝繁明

ハナゼキショウ チシマゼキショウ科

Tofieldia nuda Maxim. var. *nuda*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市用瀬町 2021.7.18 / 撮影：松本 綾

■**選定理由**：県内東部の限定的な地域に生育し，愛好家による採取圧がある。気候変動により激しい豪雨等に見舞われ，流失や個体の消失を余儀なくされている。

■**特徴**：湿潤な岩場や溪谷沿いの切り立った崖地に生育する小型の常緑多年生草本。走出枝を欠く。葉は根出し線形で長鋭突頭，全縁，長さ5–20 cm。花期は7–8月。花茎は長く突出し小形の葉を2–3枚つける。上部に総状に多数の花をつける。小花柄は長い。セキショウに似た葉姿で白い花が数多く咲くことが和名の由来。類似のヒメイワショウブは葉縁に微細突起があり，イワショウブは花茎が長く1節から3個ずつ咲く点で区別。自生地は急峻な岩場でシカの食害は受けにくい，おそらく近年の豪雨で大きな株が新しい株に入れ替わっていた地点があった。緊急性は少し遠のいている。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市用瀬町，若桜町。県外：本州関東以西，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止，ニホンジカの適正管理，谷沿いの自然保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：松本 綾

イワショウブ チシマゼキショウ科
Triantha japonica (Miq.) Baker

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山 2011.9.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での自生地は大山の1カ所のみ。個体数も少なく絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：亜高山の湿原に生える多年生草本。草丈は20–30 cm 前後。県内では大山山系の風衝草原に生育する。自生地は岩場の斜面で、上部からの雨水により涵養されている。花期は8–9月。花茎の先に白い小さな花が多数咲く。岡山県蒜山，広島県北東部の集団とともに分布南西限の集団の一つ。

■**分布** 県内：大山。 県外：本州（主に日本海側）。

■**保護上の留意点**：風衝草原の侵食防止対策，登山者による登山道の荒廃防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：16, 17, 116.

執筆者：永松 大

マルバオモダカ オモダカ科
Caldesia parnassiifolia (Bassi. ex L.) Parl.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2020.9.10 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内で確認されているのは2カ所のみ。ため池の利用と管理の放棄にともなう環境の変化で絶滅の危機にある。

■**特徴**：低地の浅水深のため池・池沼に生育する多年生草本。葉は根出し，葉柄の長さは水深に対応させて葉は水面に出る。葉は円心形で長さ10 cm 前後，基部は深心形。枝を3個ずつ輪生する輪生総状花序を伸ばし，9月に白色の花をつける。果実は楕円形で長さ3 mm，背面に2個の溝がある。水中にある花穂にはむかごがつき，無性繁殖する場合がある。水田耕作の休止により自生地のため池が管理されなくなり，植生が変化しつつある。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市。 県外：本州，四国，九州，奄美。中国，インド，オーストラリア，マダカスカル。

■**保護上の留意点**：ため池管理。水辺植生の保全管理。

執筆者：坂田成孝

アギナシ オモダカ科
Sagittaria aginashi Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市国府町 2020.8.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の山間湿地に点在し，個体数も少ない。耕作休止による半自然の山間湿地の減少とこれにともなう植生変化が顕著。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生育する多年草。葉は根出，細長い矢じり形，裂片は細長く先端は微小球状になる。走出枝はない。花期は8–10月，花は白色，花茎は60 cm 程度になり輪生総状花序をつける。根元には小球芽をつける。県内では水田には見られない。水田や用水路に多産するオモダカは葉形の変異が多く本種との区別がまぎらわしいが，オモダカは裂片の先端がとがり，秋に走出枝を伸ばして先端に塊茎ができる。アギナシは山間地の耕作休止により生育地が減少するとともに，環境変化によりヨシなどの大型草本や周辺の木本が繁茂することで減少傾向にある。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市国府町，南部町，日南町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山間湿地の保全管理。たたら跡の湿地保護。

執筆者：坂田成孝

セトヤナギスブタ トチカガミ科

Blyxa alternifolia (Miq.) Hartog

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



円内は種子。 米子市 2021.8.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では 2021 年に生育が確認された。生育地、生育個体数ともにきわめて少なく、除草剤散布や耕作放棄にともない絶滅のおそれが非常に大きい。

■**特徴**：水田や水路に生育する 1 年生の沈水植物。ヤナギスブタに似るが葉や茎がより大きい。種子の表面に低い隆起が数個あり、ヤナギスブタとの判別点となる。県内自生地は、水田内と水田周囲のイネが植栽されていない箇所にもスブタ、ヤナギスブタ、オモダカ、キクモなどと混生している。全国的にも非常に希少な種。

■**分布** 県内：倉吉市関金町、米子市。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：農薬の使用防止、水田の継続耕作、採取防止。

■**文献**：26.

執筆：矢田貝繁明

マルミスブタ トチカガミ科

Blyxa aubertii Rich.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



円内は種子。 米子市 2021.9.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では 2021 年に生育が確認されたが、生育地、生育個体数ともにきわめて少ない。水田内に生育し、休耕による絶滅のおそれが大きい。

■**特徴**：ため池や水田、水路などに生育する 1 年生の沈水植物。生育環境や多数の葉を叢生するなどの形態はスブタと同じで外見からの区別は困難。種子の両端に尾状突起が発達しないのが特徴で、種子を確認して同定する必要がある。

■**分布** 県内：米子市。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水田の耕作維持、除草剤の使用防止。

■**文献**：26.

執筆：矢田貝繁明

スブタ トチカガミ科

Blyxa echinosperma (C.B.Clarke) Hook.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



倉吉市関金町 2021.8.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では過去に生育確認がなく、2017 年に確認された種。分布はきわめて限定されており、生育地の多くが水田のため生育環境の改変による絶滅の危険性が高い。

■**特徴**：ため池や水田、水路などの浅い水域に生育する 1 年生の沈水植物。茎はあまり伸びず多数の葉が円形に広がるようにして生育する。葉は線形で長さ 10–30 cm、幅 3–9 mm と細長い。マルミスブタと形態が似ているが、種子両端の尾状突起の有無で判別できる。花期は 7–10 月で、白色の細長い 3 枚の花弁をもった小さい花がつく。県内各地の止水域でより詳しく調査を行えば、他にもみつかる可能性はある。

■**分布** 県内：倉吉市関金町、大山町、米子市。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水田の耕作維持、採取防止。

■**文献**：26, 68.

執筆：汐田達哉

ヤナギスブタ トチカガミ科

Blyxa japonica (Miq.) Maxim. ex Asch. et Gürke

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



倉吉市関金町 2021.9.17 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：1967年採集の記録以後、県内では生育が確認できず改訂版では絶滅とされていた。その後2015年に伯耆町内のため池で、2021年に鳥取市河原町、倉吉市関金町と米子市内の水田で生育が確認された。それでも個体数はわずかで絶滅の可能性が大きい。

■**特徴**：水田や用水路、ため池などに生育する1年生の沈水植物。水中に茎を伸ばし、よく分枝し多数の葉をつける。葉は互生し葉身は線形、葉縁には細鋸歯がある。7-10月に目立たない3花弁の白色の花を咲かせる。新たに確認されたため池での生育個体数は極めて少ない。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、倉吉市関金町、米子市、伯耆町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ため池の水量管理、除草剤の使用防止、水田耕作の継続。

■**文献**：67, 108.

執筆者：矢田貝繁明

ヒロハトリゲモ (サガミトリゲモ) トチカガミ科

Najas chinensis N.Z.Wang

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



大山町 2021.8.6 / 撮影：汐田達哉

■**選定理由**：県内では限られた水田やため池でのみ生育しており、水質の悪化や農薬使用、管理方法の変化により絶滅のおそれがある。

■**特徴**：ため池や水田などに生育する一年生の沈水植物。茎はよく分岐し、折れやすい。葉は線形で長さ1.5-3 cm、幅0.3-0.6 mm。葉の縁には細かい鋸歯が目立つ。葉鞘は切形または円形。花期は7-9月。種子は長楕円形で長さ2.5-3 mm。種子の表面に四-六角形の大きな網目模様があり、ヒロハトリゲモを同定する際の特徴。自生地では群生していることが多いが、確認カ所は少なく水田の放棄や農薬の使用により消滅する可能性がある。

■**分布** 県内：鳥取市、大山町、米子市。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：水田・ため池の管理維持、農薬の抑制。

■**文献**：26.

執筆者：汐田達哉

イトトリゲモ トチカガミ科

Najas gracillima (A.Braun ex Engelm.) Magnus

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



大山町 2021.6.26 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：貧栄養のため池や水田などに生育する種だが、農薬や乾田化の影響で生育できる環境が少なくなっている。

■**特徴**：ため池や水田などに生育する一年生の沈水植物。茎は盛んに分岐し、折れやすい。葉は細く糸状で、長さ1-2 cm、幅約0.2 mm。葉の縁には細かい鋸歯がある。葉鞘は切形。花期は6-9月。種子は長楕円形で長さ2-2.5 mm。多くの節で種子が2個並ぶことが多いのがこの種の特徴である。県内ではスブタなどが生える省農薬の水田でよくみられる。ホッソモと群生していることが多く、調査の際に誤同定に注意が必要。

■**分布** 県内：鳥取市、琴浦町、大山町、米子市、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水田・ため池の維持管理、農薬使用の抑制。

■**文献**：26.

執筆者：汐田達哉

ホッスモ トチカガミ科

Najas graminea Delile

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2021.6.26 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：もとは水田などに広く分布する種だが、農薬の使用や乾田化により生育場所が限られている。

■**特徴**：湖沼やため池、水田などに生育する一年生の沈水植物。葉は線形で長さ1–2.5 cm、幅0.2–0.7 mm。鋸歯はほかのトリゲモ類と比べ小さく目立たない。花期は7–9月。種子は長楕円形で長さ2–3 mm。表面には四–六角形の模様があるが、ヒロハトリゲモほど模様は目立たない。葉鞘の先が耳状に尖る点がほかのトリゲモ類との識別点。県内では水田での分布が多いが、調査の進んでいない場所が多く残る。

■**分布** 県内：鳥取市、倉吉市、琴浦町、大山町、米子市、伯耆町。 県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：水田・ため池の維持管理、農薬使用の抑制。

■**文献**：26, 76。

執筆：汐田達哉

イバラモ トチカガミ科

Najas marina L.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



東郷池 2018.9.5 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では米子水鳥公園と東郷池で採集記録があるが、水鳥公園での現状は不明。個体数はわずかで絶滅の可能性が大きい。

■**特徴**：湖沼やため池に生育する1年生の沈水植物。茎は水底を匍匐し分枝して広がる。茎には多数の刺があることが多い。葉はふつう対生する。基部は葉鞘となり、線形、長さ2–6 cm、幅1–2 mm、葉縁に大きな鋸歯があるのがふつうだが目立たない集団もある。花期は7–9月。雌雄異株。雌花は葉腋につき、花被がなく1個のめしべがつく。東郷池では2018年の環境省モニタリングサイト1000調査により初めて確認された。なお、2012年版RDBに掲載したヒメイバラモは種の実態がはっきりしないため評価から外した。

■**分布** 県内：東郷池、米子水鳥公園。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：継続的なモニタリング。

■**文献**：26, 108。

執筆：永松 大

ミズオオバコ トチカガミ科

Ottelia alismoides (L.) Pers.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子市 2019.9.15 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：河川、水路、ため池のコンクリート化、圃場整備、農薬の使用などで生育環境が悪化し、極限的に孤立している。このほか河川整備時に除去されることもあり減少が顕著である。

■**特徴**：水田や沼、河川など浅い水中に自生する1年生の沈水植物。葉は根生し長い葉柄を持つ。葉身は若い株では長披針形、しだいに鈍頭長卵形に変化。葉は波状の鋸歯縁、5–6本の縦脈がある。葉の長さは水深によって異なり10–30 cm。葉の間から花茎を伸ばし水面上で、直径約3 cmの白色また微紅色の花を付ける。花卉、萼片、雄しべ各3本。花期は8–9月。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市、河原町）、湯梨浜町、大山町、米子市、日吉津村、伯耆町、南部町、日南町。 県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：自生地の把握と保護の啓発。河川清掃時の除去防止。

■**特記事項**：かつては河川や水路、水田、ため池、湿地にふつうであったが、河川改修、圃場整備、農薬使用等で激減した。河川清掃時に外来種のオオカナダモとともに抜き取られることがあるので、河川管理者に自生を周知し、除去の防止と生育環境保全が必要。

■**文献**：21。

執筆：浜田幸夫

セキショウモ トチカガミ科
Vallisneria natans (Lour.) H.Hara

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



米子市 2021.10.2 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：河川，水路の改修，水質悪化により生育地が減少してきた。現在は外来水草との競合も懸念され，絶滅のおそれがある。

■**特徴**：湖沼や河川などに生育する落葉性の多年生沈水植物。葉は根生，線形で長さ 10–80 cm，幅 3–9 mm。葉の先端の葉縁には鋸歯があるが下方ではなくなる。水底に走出枝を伸ばして増える。花期は 8–10 月，雌花は花茎が伸び，雄花が浮遊する水面で受粉後，花茎がらせん状にねじれて縮み，水中に引き込まれて結実する。東郷池では以前は広く生育していたが高度成長期に消失し，2015 年に再発見された。現在は行政と地域住民の協働により保全（移植増殖）が図られている。国内では同属の外来水草コウガイセキショウモ (*Vallisneria* × *pseudorosulata* S.Fujii et M.Maki, 常緑多年草) が確認されており，同定に注意が必要。

■**分布** 県内：東郷池，米子市。県外：本州，九州。

■**保護上の留意点**：河川，水路等の清掃・改修時の周知。外来水草の防除。

■**文献**：3, 26, 57, 58。

執筆：赤井伸江

エビモ ヒルムシロ科
Potamogeton crispus L.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



米子市 2021.10.3 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：水質汚濁には強いとされるが，外来水草との競合により衰退傾向の自生地がある。

■**特徴**：湖沼やため池，河川，水路などに生育する多年生の沈水植物。葉は無柄，広線形で長さ 3–10 cm，幅 3–9 mm。鋸歯が目立ち，葉脈は赤みがかかる。葉縁は縮れたように波打つ場合が多い。花期は 5–9 月，水面から目立たない花序を出す。葉腋あるいは頂端に茎と葉が肥大して堅くなった特徴的な殖芽をつける。米子市内の自生地ではヤナギモ，オオカナダモとともに生育しているが，圧倒的にオオカナダモが優占し，衰退傾向にある。

■**分布** 県内：鳥取市河原町，東郷池，大山町，米子市，日野町。県外：北海道，本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：外来水草の防除。

■**文献**：26, 56。

執筆：赤井伸江

ホソバミズヒキモ ヒルムシロ科
Potamogeton octandrus Poir. var. *octandrus*

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



鳥取市福部町 2014.7.15 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内ではため池や淡水湖沼に生育が確認されている。沈水葉のみの集団があり，類似植物と区別がつかないため絶滅危惧の評価が難しい。

■**特徴**：ため池や水路などに生育する小型の沈水・浮葉植物。水底に細い地下茎を持ち，水中に多数分枝する枝を伸ばす。沈水葉は幅 1 mm 程度の線形，浮葉は小さく長さ 3 cm，幅 1 cm ほどの長楕円形。流水中では浮葉がつかないこともある。花期は 6–9 月，浮葉で支えるようにして水上に花穂をあげ開花する。秋にかけて葉腋に 1 cm 程度の長さの殖芽をつけ越冬する。沈水葉だけではイトモと区別しにくく殖芽をみる必要がある。全国で沈水性のホソバミズヒキモ類似植物が見つかっており，分類学的再検討が必要とされている。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市（福部町，佐治町），大山町，米子市，伯耆町，南部町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ため池の適正管理，淡水湖沼の水質維持。

■**文献**：26。

執筆：永松 大

リュウノヒゲモ ヒルムシロ科 *Potamogeton pectinatus* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子水鳥公園 2010.7.21 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：県内では米子水鳥公園が重要な生育地であるが、衰退が著しく絶滅が心配される。

■**特徴**：海岸付近の汽水域に多いが、湖沼、河川などにも生育する多年生の沈水植物。水中茎は上部で多分枝する。葉は、針葉、長さ10–15 cm、基部は托葉と合着、葉鞘となり葉をだく、全縁。葉の先端は尖っており鋸歯はない。水中茎は細く葉と区別しづらい。夏期は5–9月、花穂は伸びて水面に横たわる。種子は花穂に10–20個。7月頃より塊茎が地下茎の先端に形成され、水鳥の餌となる。塊茎は類似植物との識別に有効。米子水鳥公園に大群落を形成していたが、現在は衰退が著しく絶滅が心配される。

■**分布** 県内：米子市、米子市淀江町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然再生と保全。水質汚濁の防止。

■**文献**：46, 47, 48, 49。

執筆：神谷 要

ツツイトモ ヒルムシロ科 *Potamogeton pusillus* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子水鳥公園 1999.7.15 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：県内では中海沿岸にのみ生育するが、減少が顕著である。

■**特徴**：汽水域に多いが、湖沼や河川などにも生育する繊細な沈水植物。葉は線形、長さ2–5 cm。葉脈は明瞭、托葉は筒状で柔らかく崩れやすい。花穂は上下2段に分かれてつく。花径の長さは1.5–2 cm。イトモとは托葉で区別するが、形が残っている開葉前に確認することが必要。県内では海岸付近の湖沼・湿地・河川に生育している可能性があり、特に汽水域の開発・埋め立て時は、生育状況を調査する必要がある。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然な水辺の再生と保全。水質汚濁防止。

■**特記事項**：近年、島根県の宍道湖、松江城の堀川では広く繁茂するようになった。

■**文献**：46, 48, 49。

執筆：神谷 要

イトクズモ ヒルムシロ科 *Zannichellia palustris* L.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子水鳥公園 2010.11.15 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：県内では米子水鳥公園とその周辺のみでしか確認されていない。近年個体が見つからなくなっており絶滅が心配される。

■**特徴**：汽水性の繊細な沈水植物。海岸沿いの湖沼や干拓地の入り江などに生育する。地下茎から水中茎が伸びる。葉は対生一輪生し、線形で長さ3–7 mm、全縁。花は単性花、雄花と雌花は同一の葉腋に並んでつく。果実は両脇に突起のある三日月状。背面に歯牙がある。長さ5 mmでほとんど無柄。果実は極めて特徴的。全国的に希少である。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：汽水の自然な水辺の再生と保全。

■**特記事項**：米子水鳥公園では最近10年以上確認されていない。

■**文献**：45, 48, 49。

執筆：神谷 要

カワツルモ カワツルモ科
Ruppia maritima L.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



標本 (米子水鳥公園採集：神谷要) 1996.7.20 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：海岸近くの海跡湖や水たまりに生育することが多いが、県内での生育確認はほとんどない。

■**特徴**：広い範囲の汽水(塩分濃度0.5-77 psu)の止水環境を生育地とする多年生沈水植物。植物体は繊細で、葉は互生し、幅1 mm以下、長さ5-10 cm程度。花序のある節は対生し、葉の基部はふくらみのある托葉となっている。花期は5-10月。花序は特徴的な散形花序だが、花序がないときはリュウノヒゲモと誤同定されることがある。葉先端部に鋸歯があることからリュウノヒゲモと識別できる。花茎は2-10 cmで、ねじれていても数回程度である。近似種に花茎がコイル状になったネジリカワツルモがある。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町、米子市。 県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の自然な水辺の再生と保全、水質汚濁防止。

■**特記事項**：米子水鳥公園では最近10年程度確認されていない。

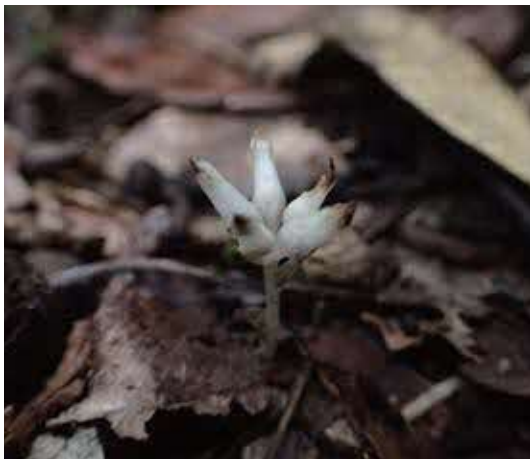
■**文献**：46, 48, 49.

執筆者：神谷 要

ヒナノシャクジョウ ヒナノシャクジョウ科
Burmattia championii Thwaites

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



倉吉市 2021.9.25 /撮影：清末幸久

■**選定理由**：県内の自生地はごく限定されている。里山環境に生育し、利用減少や放棄に伴い衰退することが懸念される。

■**特徴**：高さ3-15 cmとなる菌従属栄養植物。葉緑体は持たない。湿潤な場所を好む。花期は8-10月。県内の生育環境は、放棄された薪炭林の林床。植物体は小さく見つけるのが難しい。県内の自生地では同所的にホンゴウソウも確認されているが、両種の生育適地にはある程度の差異があるとされる。

■**分布** 県内：倉吉市。 県外：本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：菌従属栄養植物のため、本種だけでなく生育環境全体を保全する必要がある。

■**文献**：6, 37.

執筆者：清末幸久

ヒメドコロ ヤマノイモ科
Dioscorea tenuipes Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



円内は種子。鳥取市用瀬町 2021.10.5 /撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では生育記録が少なく個体数も多くない。半自然草原のような生育適地が減少している影響が考えられる。

■**特徴**：山野や林縁、疎林内に生育するつる性の多年生草本。雌雄異株。葉は互生し三角状披針形でオニドコロよりも幅が狭い。先は細く尖り基部は心形でやや耳形にはりだすのが特徴だが、変異幅は大きい。葉柄の両側に小突起がある。花期は7-8月、雄花序、雌花序とも垂れ下がるのが特徴。よく似た普通種のオニドコロやヤマノイモと比べて数が少なく、ヒメドコロを見る機会は少ない。

■**分布** 県内：点在。 県外：本州(関東以西)、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：半自然草原の維持。

執筆者：永松 大

ホンゴウソウ ホンゴウソウ科

Sciaphila nana Blume

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市河原町 2012.10.8 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では2009年に発見され前回はCR+ENと評価した。その後の調査努力で県内の確認地点が増えたことと、継続調査により生育状況の安定性がわかってきたため今回はVUと評価した。

■**特徴**：緑葉を持たない菌従属栄養植物。マダケやモウソウチクの林、コナラ林、照葉樹林などの薄暗く湿った林床に生える、地上部は高さ3-7cmと小さく目立たないため発見するのは難しい。7-10月にかけて紫褐色の花茎を伸ばし先端に3-15個ほどの花をつける。上部に雄花が、下部に雌花がつく。植物体が小さいこともあり、落葉層が厚い場所には見られず落葉のすき間に生育する。

■**分布** 県内：鳥取市（河原町、気高町）、倉吉市関金町、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：自生する森林、竹林の攪乱防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：永松 大

アオヤギソウ シュロソウ科

Veratrum maackii Regel var. *parviflorum* (Maxim. ex Miq.) H.Hara

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山 2013.7.20 / 撮影：鷲見寛幸

■**選定理由**：県内での自生地が大山に限られ、高標高域が主な産地で希少性が高い。

■**特徴**：大山山頂部周辺の草原に多く生育する多年生草本。高さ40-80cmになる。葉は長楕円形で長さ20-30cm、鋭頭で基部は鞘状に茎を抱く。夏、シュロソウは暗赤紫色、アオヤギソウは黄緑色の花を円錐状に多数つける。花径は約1cm。アオヤギソウに比べシュロソウの方が多く見られる。和名は花の色と柳に似た葉の様子からきたもの。

■**分布** 県内：大山。県外：北海道、本州。

■**保護上の留意点**：大山自然草原の植生保護。

■**文献**：106。

執筆：鷲見寛幸

バイケイソウ シュロソウ科

Veratrum oxysepalum Turcz. var. *oxysepalum*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2014.7.25 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では標高700-1500mの範囲に局地的に生育するが、生育環境が不安定なため保全が必要。

■**特徴**：山地の湿地や山地溪流の土壌堆積地等に群生する大形の多年生草本。茎は中空で太く、1mに達する。茎の中ほどの葉は長さ15-30cm。平行脈顕著。基部は鞘状。花期7-8月。緑白色。総状花序の集まった円錐花序をつける。有毒。若芽はギボウシ類と類似。生育場所も同じような環境なので要注意。

■**分布** 県内：鳥取市、若桜町、智頭町、三朝町、江府町、日南町。県外：北海道、本州、アジア東北部。

■**保護上の留意点**：自生地は国立・国定公園区域内に多いが、林道の開設などに注意。

■**文献**：108。

執筆：井上喜美子

アマナ ユリ科
Camelina alyssum (Mill.) Thell.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



岩美町 2018.3.28 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：全県に点在するが、草地や林縁などの生育環境悪化で減少している。花が咲くと園芸品として採取されることがある。
- 特徴**：海岸から低山地の明るい草地や林下に見られる多年生草本。葉は線形で2枚、根出葉のように見える。花期は3-4月、花茎を15cmほど伸ばし1花をつける。花被は白色で背面に暗紫色の脈がある。日光を受けて開く。蒴果は円形で長さ10mmほど。日が当たる場所や林下の木漏れ日の下で育つが、草刈りの減少による高茎草本や樹木の繁茂による生育適地の減少が目立つ。花が群がって咲くと観賞用として採取されることがある。
- 分布** 県内：岩美町、鳥取市（佐治町、河原町）、若桜町、三朝町、大山町、伯耆町、南部町、江府町、日野町。 県外：本州（東北南部以南）、四国、九州。
- 保護上の留意点**：低山地の草地管理と採取防止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：坂田成孝

ツバメオモト ユリ科
Clintonia udensis Trautv. et C.A.Mey.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2017.7.30 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内の自生地は1カ所のみ。シカ食害が顕著で下層植生が衰退、この10年は本種の確認例は1件のみで絶滅が心配される。分布西限。
- 特徴**：通常は亜高山帯針葉樹林下に生育する多年生草本。県内では氷ノ山のみ分布。遺存植物。葉は根出葉のみで倒卵状長楕円形、やや肉厚、長さ15-30cm。高さ30cmほどの花茎の先端に単総状花序をつくり白色の花をつける。花茎は花後2倍長に伸長。果実は濃藍色、球形、径約1cm。和名は果実の色をツバメに見立てたもの。
- 分布** 県内：氷ノ山。 県外：北海道、本州近畿以北。
- 保護上の留意点**：厳重な採取防止。氷ノ山一帯の自然林の保護。ニホンジカの適正管理。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：山本賢二

カタクリ ユリ科
Erythronium japonicum Decne.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



江府町擬宝珠山 2021.4.26 / 撮影：藤原文子

- 選定理由**：県内では1000m級の山岳の山頂部を中心に数カ所に群生が見られる。草原や明るい樹林下を好むが、下層植生の繁茂やシカによる食害が生育に悪影響をおよぼしている場所がある。日野郡の生育地では草刈り等による保護がされて株数が増加している場所もある。
- 特徴**：ブナ帯域の草原や明るい樹林下に群生する多年生草本。春先の林床が明るい季節に葉を広げ開花結実する春植物。成熟した個体は2枚の葉を広げ4月頃紅紫色の花をつける。花被片6枚、陽光により反り返る。県内の生育地は山頂部がほとんどだが、岩美町では標高300mほどの山腹斜面に自生。近年は3-4月の気温上昇や少雪により開花時期の変化が著しい。
- 分布** 県内：岩美町、鳥取市鹿野町、倉吉市関金町、大山町、江府町、日野町、日南町。 県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：自然林の保全、下層とくにササ類の植生管理。踏みつけや採取の禁止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。
- 文献**：108。

執筆者：藤原文子

キバナノアマナ ユリ科

Gagea nakaiana Kitag.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市佐治町 2021.3.27 / 撮影：松本 綾

■**選定理由**：近年の農村人口の減少や高齢化による果樹園放棄などの里山環境の変化により個体数が激減している。

■**特徴**：山野に生育する多年生の春植物。県内では千代川支流中流域に特異的。明るい北向き斜面の果樹園内や畦畔・林縁など、下草が刈り払われ明るい場所に単生する。鱗茎の外皮は黄褐色。根出葉は線形でやや厚く、粉白色で長さ10–20 cm。4月、花茎の頂に4–10個の花が散形状につく。花被片は黄色で6裂、裂片は披針形、径1–2 cm。果実は偏球形で3稜がある。人口減少や高齢化により自生地の利用放棄がすすみ本種の個体数は減っている。果実が充実する時期に不意に草刈りが行われる様子も見られた。20年にわたり観察してきた地点で2021年は1個体しか確認できなかった。

■**分布** 県内：八頭町、若桜町、鳥取市佐治町。県外：北海道、本州中部以北、朝鮮半島。中国、シベリア東部、ヨーロッパ。

■**保護上の留意点**：果樹園や畑付近、林縁等、自生草地の保全管理。

執筆：松本 綾

タケシマラン ユリ科

Streptopus streptopoides (Ledeb.) Frye et Rigg subsp. *japonicus* (Maxim.) Utech et Kawano

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



扇ノ山 2005.5.29 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：中部以北の亜高山帯に生育し、県内では扇ノ山上部に隔離分布する。近年シカ食害による衰退が著しく絶滅寸前。小型柵により個体の保護をはかっている。

■**特徴**：扇ノ山頂上部の山道でチシマザサに寄りそうように生育している多年生草本。茎は高さ20–30 cm、途中で二又に分枝するものが多い。無毛で平滑。葉は互生し無柄、長さ3–10 cm。基部は茎を抱かない。花期は5–6月、上部の葉腋から出る長い花柄の先に一花を垂れ下げる。液果は径7 mmで赤く熟す。2021年は食害のため、開花個体はごく少数であった。

■**分布** 県内：扇ノ山。県外：北海道、本州中部以北、四国（剣山）。

■**保護上の留意点**：扇ノ山山頂部の自然保護、登山道整備時に注意。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：保護管理活動を実施中。鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：79。

執筆：山本晴恵

タマガワホトギス ユリ科

Tricyrtis latifolia Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



水ノ山 2017.7.30 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は大山、三国山、氷ノ山の谷筋の一部に限られている。調査が進んで確認地は増えたが、個体数は多くない。

■**特徴**：ブナ帯の溪谷沿いの斜面、水がしたたり落ちるような場所に生育する多年生草本。茎は斜上し高さ30–100 cm、葉は互生。基部は深心形で茎を抱く。花は7–9月。黄色で紫褐色斑点がある。花序は葉腋につく。

■**分布** 県内：若桜町（氷ノ山）、三朝町（三国山）、大山町（大山）。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取禁止、山地溪谷の自然植生保護、刈り払い注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、分布西限。

■**文献**：63, 108。

執筆：井上喜美子

ヒナラン ラン科
Amitostigma gracile (Blume) Schltr.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



琴浦町 2021.6.20 / 撮影：澤田達也

■**選定理由**：過去に再生能力をはるかに上回る採取圧にさらされ激減した。種の存続が難しい危機的水準まで減少しており、絶滅が心配される。

■**特徴**：山地のやや乾いた崖壁の岩棚などに生育する小型のラン科草本。葉は長さ5-7 cm、幅1.5 cmの狭長楕円形で基部に1枚つく。花期は6月下旬-7月上旬。淡紅紫色の小花5-15個を総状につける。現在は容易に近づけない岩壁にのみ残る。

■**分布** 県内：若桜町、鳥取市用瀬町、琴浦町、日野町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：大規模な岩壁に生育するため環境変化は少ないが、厳重な採取防止が重要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

マメヅタラン ラン科
Bulbophyllum drymoglossum Maxim. ex Okubo

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



八頭町 2020.5.24 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内に生育情報はあったものの確認ができていなかった種で、2018年に初めて確認された。県内の生育地は1カ所のみで生育個体数も少ないため、絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：山地の岩や樹幹上に着生する常緑のラン科草本。細い匍匐茎を伸ばし、まばらに葉をつける。葉はほぼ円形で、径約1 cm。花期は5月で淡緑色の小さな花を多数つける。県内生育地は日当たりのよい急峻な崖地。

■**分布** 県内：八頭町。県外：本州（福島県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

ムギラン ラン科
Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



三朝町 2019.7.12 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内での生育地が少なく、生育個体数もわずか。生育に適した環境や大径木が減少している。

■**特徴**：照葉樹林内の樹幹や日当たりのよい岩場に生育する小型の常緑性ラン科草本。茎は横走し、卵形の偽球をつける。葉は長楕円形で偽球の先端に1枚つける。花期は6月上旬で、花は帯黄白色で偽球に側生する。県内生育地の多くは、神社の老木の樹幹に着生している。

■**分布** 県内：鳥取市、三朝町、南部町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

エビネ ラン科

Calanthe discolor Lindl. var. *discolor*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



伯耆町 2017.5.5 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：県内各地に点在するが、山野草として採取圧が高く減少の懸念が大きい。

■**特徴**：丘陵地―山地の林内に生育する多年生ラン科草本。葉は2-3枚つき、長さ15-25 cm、幅5-8 cmの倒卵狭長楕円形。花は4-5月に8-15個をつける。萼片は平開し、側花弁とともに淡緑から暗褐色で花被状。唇弁は萼片と同長、帯紅色または白色で扇形。和名は「海老根」で、偽球茎が連なる様子をエビの形に見立てたもの。過去の山野草ブームで乱獲され激減したと言われている。鳥取県内ではすぐに絶滅する可能性は低いが、現在も花色に変化があるものは珍重され、見つければ採取される。採取圧以外にも林内の被陰が増して衰退する可能性がある。

■**分布** 県内：点在。県外：北海道西南部―沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止の啓発が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：赤井伸江

キンセイラン ラン科

Calanthe nipponica Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2020.7.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は限定されていて生育本数も少ない。園芸用採取のため激減している。改訂版ではCR+ENとされていたがその後の調査で新たに生育地が確認されたためVUに変更した。

■**特徴**：山地の林内に生育するラン科の多年生草本。葉は5-6枚つき、長さ15-30 cm、幅1-2 cmの広い披針形で濃緑色。7月上旬頃、淡黄色の花を7-10個咲かせる。現在確認されている生育地はいずれもスギ林の林床で生育本数はわずか、群生せず孤立的に生育している。

■**分布** 県内：中部から西部の数カ所（非公開）。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：スギ林の強度間伐などによる急激な環境変化対策、厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ナツエビネ ラン科

Calanthe puberula Lindl. var. *reflexa* (Maxim.) M.Hiroe

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市用瀬町 2018.8.12 / 撮影：長棟光祐

■**選定理由**：県内各地に点在しており、現時点では絶滅可能性は高くはないと考えられるが、山野草として人気があり採取圧が強いことが懸念材料。全国的には減少が顕著。

■**特徴**：ラン科の常緑多年生草本。花期は7-9月、淡紅紫色の花を10-20ほどつける。葉は根出、長楕円形。花が枯れてからもしばらく花茎が残る。エビネとの区別は葉だけでは難しい。スギ林内等の比較的湿度の高い林内で見られることが多い。県内東部では比較的多いが西部では少ない傾向にある。小面積に数本が点在することが多く、採取や攪乱により集団単位で消失する可能性がある。

■**分布** 県内：県内各地に点在。県外：本州、四国、九州

■**保護上の留意点**：自生環境の保護、採取防止

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：106, 108.

執筆：長棟光祐

キエビネ ラン科
Calanthe striata R.Br.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)



鳥取県内 2018.5.17 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：過去に採取圧が強く、生育地が激減し生育個体数も激減している。エビネ類の中でも花が目立ち生育が発見されやすいため、現在でも採取圧による減少が再生産を上回っている。

■**特徴**：暖温帯林の林床に生育する常緑のラン科の多年生草本。エビネやナツエビネに比べ植物体は大形。花期は5月中～下旬。鮮黄色の花を円錐状に20個前後つける。県内で現在確認されている生育地の多くはスギ造林地内であり、森林作業で見つければ採られる可能性がある。森林作業者への啓蒙が必要。

■**分布** 県内：非公開。県外：本州（福井県以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止、生育地の非公開が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

サルメンエビネ ラン科
Calanthe tricarinata Lindl.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取県内 2021.4.27 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：以前から県内の生育情報はあったものの確認に至っていなかった種で、2012年5月に初確認された。県内の生育地、生育個体数ともにきわめて少ない。エビネ類の中でも大型で目立つため採取圧が強く、過去の山野草ブーム時にほとんど採り尽くされた。

■**特徴**：ほぼ日本全土に分布し、ブナ林など深山の林床に生育するラン科の大型多年生草本。葉は2-4枚つけ、倒披針形で長さ30-50cmと大きい。まれに70cm近いものもある。5月-6月上旬に高さ30-50cmの花茎を伸ばし5-15個の花を疎らにつける。黄緑色の幅の広い3枚の萼片と2枚の側花弁がある。赤褐色の唇弁は3裂し垂れる。ニホンジカの食害にともない林床から植物が消えた場所では小型の防鹿柵で保護している。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：66。

執筆者：矢田貝繁明

ギンラン ラン科
Cephalanthera erecta (Thunb.) Blume var. *erecta*

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



大山町 2018.5.15 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は限られていて生育個体数も少ない。発見されるのは落葉広葉樹内の歩道近くや古い側溝周辺が多い。新しい生育地が数カ所見つかると、絶滅のおそれが高率的に少しゆるんだためVUに変更。

■**特徴**：低地-山地の広葉樹二次林内や林縁に生育するラン科の多年生草本。キンランに比した名前と思われるが、より小さめで高さ10-20cm。葉は3-6枚が互生し、長楕円形で長さ3-8cm、基部は茎を抱く。花期は5月中～下旬で、茎の上部に白色の花を1-8個つける。花は長さ約1cmで、距がある。

■**分布** 県内：鳥取市、米子市、大山町、南部町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止と生育環境の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

キンラン ラン科

Cephalanthera falcata (Thunb.) Blume

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



伯耆町 2021.5.13 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地は少なく個体数も少ない。個体数が増えた生育地がある一方で盗掘されて消滅した生育地もある。

■**特徴**：里山や丘陵地の雑木林、やや明るく乾燥ぎみの林床や林道沿いに生育する多年生ラン科草本。茎は分枝せず直立して30–50 cm。縦じわのある鋭突頭広針形の葉5–6枚が互生し、茎を抱く。花期は4–5月。金色の花は全開することはなく常に半開き状態、夜は閉じる。萼と花弁は同色同形、総状に約10個が上向きにつく。県下全域に分布するが、単生し個体密度は低い。山地に多いものの、平地の市街地近い林床にも見られることがある。本種の生育には菌根菌との安定した共生系の維持が必要なが知られている。

■**分布** 県内：点在。県外：本州（秋田県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止と生育環境の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：藤原文子

ササバギンラン ラン科

Cephalanthera longibracteata Blume

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2020.5.28 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は限定されており、生育個体数も少ない。生育環境の悪化や採取などにより個体数が減少している。最近の調査により新しく確認された場所もあるが、依然として採取被害がある。生育状況が比較的安定しているため今回VUの評価としたが、数は少なく注意が必要。

■**特徴**：山地のやや乾いた明るい林内や林縁沿いに生育するラン科の多年生草本。茎は高さ30–50 cmで、葉は狭楕円形–披針形、長さ5–15 cm、幅2–3 cmで葉脈が顕著。6月頃白色の花をつける。生育地は遊歩道脇などの林縁部が多いが、いずれの場所でも数個体が見られる程度。

■**分布** 県内：三朝町、大山町、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：登山者による踏みつけ防止、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

クゲヌマラン ラン科

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



大山町 2020.6.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内で確認されているのは大山山頂部から山麓で、生育地の土砂崩落が進行しており減少が著しい。調査が進むにつれて新しい生育地も確認されている。

■**特徴**：海岸付近から高山まで生育が確認されているラン科の多年生草本。高さ20–30 cmで、葉は4–5枚が互生。花期は6月で、茎頂部に2–6個の白色の花をつける。花はギンランやササバギンランの花に類似するがクゲヌマランの花には距がない。以前はギンランと混同されていたが、2011年に大山中腹で初確認されて以降、中腹（標高1000 m付近）から剣ヶ峰（1729 m）にかけて生育が確認されている。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ユウシュンラン ラン科

Cephalanthera subaphylla (Thumb.) Blume var. *subaphylla* (Miyabe et Kudô) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



大山町 2020.5.7 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は数カ所で個体数も少ない。林床の変化に弱く、落葉の流出やイノシシによる掘り起こしかく乱で消滅した場所もある。

■**特徴**：環境変化の少ない樹林下や竹林内に生育するラン科の多年生草本。茎は高さ3-10 cm程度で、長さ3 cmほどの葉が2-3枚つく。花は5月上旬-中旬に咲き、色は白色。生育地は常緑広葉樹林、落葉広葉樹林、竹林などの林下で、下層植生の少ない安定した場所。花期以外は目立たないため確認は困難である。花の時期には観光客が多い場所では注意喚起が必要。

■**分布** 県内：鳥取市鹿野町、大山町、南部町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止、生育地の急激な環境変化防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

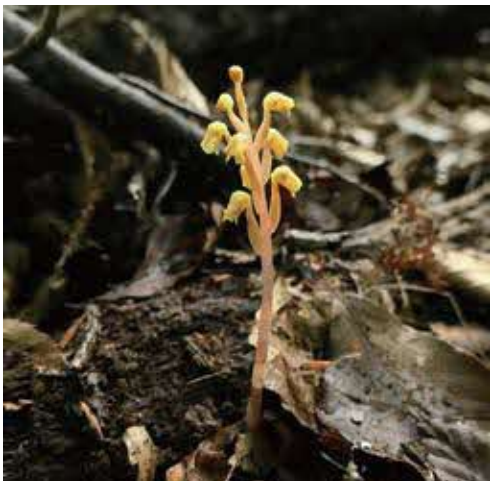
執筆者：矢田貝繁明

ヒメノヤガラ ラン科

Chamaegastrodia sikokiana Makino et F.Maek.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



鳥取市佐治町 2020.8.2 / 撮影：時岡昭人

■**選定理由**：全国的に稀産。県内では2015年に初めて確認。生育地は1カ所のみで個体数もきわめて少ない。

■**特徴**：菌従属栄養植物。自然度の高い樹林内の落葉の堆積した林床に生育する。根茎が地中を這い地上茎は5-15 cmの淡紅-黄褐色で鱗片葉を互生する。8月頃、黄褐色の花を5-10個、穂状につける。植物体が小さく周囲の色とも同化しやすいため見つけるのは容易ではない。県内唯一の生育地ではシカの生息数が増加しており食害によって林床の植物が年々減ってきている。今後、それに伴う裸地化、乾燥化の影響が懸念される。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町。県外：岩手県以南の本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林の自然植生の保全。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：時岡昭人

トケンラン ラン科

Cremastra unguiculata (Finet) Finet

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



大山町 2018.6.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内生育地は少なく小個体群が散在しており、開発や工事など人為による減少も生じている。とりまく状況は改善していないが、生育状況が比較的安定していることからVUに変更した。

■**特徴**：ブナ帯域の林床に生育するラン科の多年生草本。細い地下茎が卵円形の小さな偽球茎につながる。葉は2枚、長さ10 cm程度。花期の5月から枯れ始め、9月に新芽を出す。花期は5月下旬-6月上旬。白色で暗紫色斑点が多数ある花を多数つける。2012年版に見つからないと記載した鳥取市鹿野町でもその後は継続して生育がみられている。

■**分布** 県内：鳥取市鹿野町、琴浦町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の除草などの管理、生育地の開発防止、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

クマガイソウ ラン科

Cypripedium japonicum Thunb. var. *japonicum*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2019.5.21 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内には数カ所の自生地があるが、この10年間だけでも盗掘のために2カ所で姿を消した。非常に採取圧が高く絶滅寸前。

■**特徴**：県内ではスギ林下や竹林に生育するラン科の多年生草本。地下茎が横走り集団をつくって広がるため、鉢植え等は困難。高さは30cmほど、大型で扇型の葉を2枚つける。花期は4-5月、大型の袋状唇弁が横向きにぶら下がるように咲く。自生地では多数の地上茎が花を咲かせるが、結実率は数%しかない。鳥取県条例による採取禁止指定種であるが、2010年代に少なくとも県内の2カ所で盗掘され、壊滅状態になった。スギ林下に生えるため、本種は古くから人との関わりがあると考えられるが、このままでは県内から姿を消すのも遠くないと思われる。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：62。

執筆：永松 大

イチヨウラン ラン科

Dactylosteinia ringens Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



那岐山 2021.4.25 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内での自生地は少なく、以前確認されていた場所でも消失が多い。絶滅が心配される。

■**特徴**：深山の暗くなりすぎない針葉樹林下を好む多年生ラン科草本。少々厚みのある光沢を持つ葉が一枚あるのが名の由来。花期は5-6月。高さ15cm程度の花茎に黄緑色の花を一つつける。花弁にはソバカスのような斑紋が入る。

■**分布** 県内：那岐山、扇ノ山、三国山（三朝町）。県外：北海道、本州、四国、九州。サハリン、千島列島。

■**保護上の留意点**：森が暗くなりすぎないようにする。花期以外は目立たないが採取圧は高いので注意。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：岡田祐哉

セッコク ラン科

Dendrobium moniliforme (L.) Sw.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2016.5.31 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：園芸用採取圧の強い種で、県内で知られている生育地も過去に強い採取圧を受けている。現在生育している生育地は環境が厳しい場所ばかりで再生能力も乏しい。

■**特徴**：日当たりの良い岩上や樹木の幹・枝などに着生するラン科の多年生草本。草丈10-30cmで、葉は長さ5cm前後の披針形。花期は5-6月。葉が落ちた茎の上部節から花茎を伸ばし、白色の花を数個咲かせる。岩の崩落や樹木の枯死により自生地が失われることもある。

■**分布** 県内：若桜町、八頭町、鳥取市用瀬町、三朝町、琴浦町、江府町、日野町、日南町。県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

コイチョウラン ラン科
Ehippianthus schmidtii Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 (兵庫県) 2020.8.2 / 撮影：岡田祐哉

- 選定理由**：県内では氷ノ山上部にわずかに自生の記録がある。近年は生育の確認ができず絶滅が懸念される。兵庫県側の自生地は安定している。
- 特徴**：亜高山帯から冷温帯の主に針葉樹林下に生育する小型のラン科多年生草本。親指の爪ほどの大きさの葉を一枚つけ、葉脈に沿って暗い模様が入る。花期は7-8月、15 cmほどの花茎を伸ばし薄黄緑から黄色の小さな花を2-7個まばらにつける。唇弁には赤い模様が入る。暑さには弱い。
- 分布** 県内：氷ノ山。 県外：北海道，本州中部以北，四国。千島，サハリン，極東ロシア。
- 保護上の留意点**：自生地周辺の樹林保護
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：岡田祐哉

カモメラン ラン科
Galearis cyclochila (Franch. et Sav.) Soó

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



大山 1980年頃 / 撮影：松岡嘉之

- 選定理由**：県内では1980年代に大山で撮影された個体が写真集に収められている。撮影者から標高1300 m付近の風衝草原に生育しており、数本見かけたという証言を得て複数回調査を行ったが、個体の発見には至っていない。
- 特徴**：山地から亜高山帯のやや湿った林縁に生育するラン科の多年生草本。高さ10-20 cm程になり、茎には翼がある。葉は広楕円形で1枚が根生する。6月頃花茎を伸ばし、唇弁に紫色の斑点の入った淡紅色の花を咲かせる。過去に大山に生育していたのは確実であるが現状は不明で、さらなる調査努力が必要。
- 分布** 県内：大山町 (現状不明)。 県外：北海道，本州 (中部以北)，四国 (まれ)。
- 保護上の留意点**：調査努力の継続，大山風衝草原の保護。
- 文献**：15, 55, 66。

執筆者：矢田貝繁明

マツラン ラン科
Gastrochilus matsuran (Makino) Schltr.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2018.4.26 / 撮影：矢田貝繁明

- 選定理由**：安定した森林の樹木に着生する植物で、県内ではほとんど見つかっておらず、分布地、生育個体数ともわずかで絶滅の危険性が高い。
- 特徴**：モミ、マツなどの樹幹に着生するラン科の小型の常緑多年生草本。茎は樹幹をはい長さ1-3 cm、葉は2列に互生し、長さ約2 cm、幅3 mm。5月上旬に淡黄緑色に細紫点のある小花を数個つける。現在確認されている生育地では、おもにスギの枝に着生している。採取されると即、絶滅につながりかねない。
- 分布** 県内：非公開。 県外：本州 (岩手県以南)，四国，九州。
- 保護上の留意点**：着生木に加えて周辺樹木の保護による生育環境の変化防止，嚴重な採取防止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

オニノヤガラ ラン科

Gastrodia elata Blume

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2020.7.13 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：ブナ林下に生育する菌従属栄養植物で、県内の生育地や個体数は少ない。個体は群生することがなく孤立していることが多い。

■**特徴**：日本全土の山地の樹林下に生育し、葉緑素を持たない菌従属栄養植物。茎は直立し高さ 40–120 cm になる。茎には膜質の鱗片葉をまばらにつける。花期は 6–7 月で、茎の先端部に黄褐色の花を 20–50 個ほど総状につける。木材腐朽菌のナラタケ菌と共生する。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、大山町、伯耆町、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

シロテンマ ラン科

Gastrodia elata Blume var. *pallens* Kitag.

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧 IA 類 (CR)



大山町 2021.7.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は、古くからある歩道の横、登山道横、草刈りの行われている園地などで、個体数はきわめて少ない。

■**特徴**：山地の樹林下や林縁に生育する大形のラン科の菌従属栄養の草本。ナラタケ菌と共生する。茎は円柱状で高さ 40–60 cm。7 月中旬頃、白色–淡黄色の花を穂状につける。シロテンマはオニノヤガラの変種で、環境省レッドリストにも継続的に掲載されている。オニノヤガラより茎が短く、花の色が白色を帯びることで区別される。

■**分布** 県内：琴浦町、大山町、伯耆町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育に適した森林の保護と草刈りなどの生育環境の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：116。

執筆：矢田貝繁明

クロヤツシロラン ラン科

Gastrodia pubilabiata Y.Sawa

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



伯耆町 2018.9.22 / 撮影：赤井伸江

■**選定理由**：自生環境の変化に弱く、生育条件が限られている。

■**特徴**：低地の常緑広葉樹林、竹林、杉林に生育する地生の多年草で、緑色葉を持たない菌従属栄養植物。地下にはイモ状の塊茎があり、花茎は高さ 1–3 cm、9–10 月に 1–8 個の花をつける。花は茶褐色で直径は約 1 cm、唇弁の表面に黄白色の毛が密に生える。花粉媒介者はハエとされている。結実するとすぐに花茎が伸び、高さ 15–30 cm になり、花期よりも確認しやすくなるが翌春までには消失する。確認している自生地では開花が見られない年もある。

■**分布** 県内：鳥取市、琴浦町、大山町、伯耆町、南部町。県外：関東地方以西から九州。

■**保護上の留意点**：開発されやすい低地の常緑広葉樹林などに生育するため、存在が知られないまま消失する可能性がある。

執筆：赤井伸江

ツリシュスラン ラン科
Goodyera pendula Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



鳥取県内 2021.7.24 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内での自生確認は極めて少なく個体数はわずか。今回みつかったのは倒木に着生した数個体のみ。

■**特徴**：冷温帯の溪谷近くにあるトチノキなどのコケが密生した幹に着生するラン科の多年生草本。花がつかない個体はロゼット状で極めて発見しにくい。花期は7-8月。長い花茎を垂らし花序は吊られたように立ち上がる。小さな花を房状に30-50個ほどつけ花序全体に細かい毛が生える。シュスラン属で着生するのは本種のみ。開花した株はその後、枯れる。県内で以前に発見された個体も倒木に着生した個体で、21年ぶりに確認された。

■**分布** 県内：非公開。 県外：北海道，本州，四国。台湾。

■**保護上の留意点**：自然植生の保護，急激な環境変化の防止。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：岡田祐哉

シュスラン ラン科
Goodyera velutina Maxim.

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



南部町 2017. 9.23 / 撮影：桐原真希

■**選定理由**：県内では近年発見され，自生地が極めて限定的で個体数も数株とわずかである。園芸用採取の影響を受けるおそれもある。

■**特徴**：暖温帯の常緑広葉樹林環境を好む小型の常緑多年生草本。茎の下部は匍匐し，先端の起立茎の高さは10-15 cm，長卵形の葉が3-8枚ほど互生し，大きさは2-4 cm，濃緑色で中央の主脈が白く目立つ。葉縁はやや波打ち，裏面は暗紅紫色。花は4-10個ほど，大きさは約6-8 mm，色は淡紅色から淡紅褐色を呈する。花序の軸や子房に白色短毛がある。花期は8-9月。別名ビロードラン。県内では2017年に確実な自生が初めて確認された。

■**分布** 県内：南部町。 県外：本州関東南部以西，九州，四国，沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止と照葉樹林の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：1, 14, 23, 80, 93.

執筆者：桐原真希

ミズトンボ ラン科
Habenaria sagittifera Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



米子市 2018.9.15 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内での生育地はきわめて限定・孤立しており，希少性が高い。湿地の管理がされなくなり個体数は激減している。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生育する高さ40-60 cm内外の多年生ラン科草本。茎は3稜形で直立し，無毛。地下には新旧2個の球茎がある。葉は線形で5-20 cm，幅3-6 mm，先は次第に尖る。基部は梢状で茎を抱く。花期は8-9月，帯緑白色の花が直立した穂状花序をつくる。唇弁は線形で3裂，長さ約2 cm。距は長さ1 cmで垂れ下がり先端が球状に肥大する。ずい柱は側花弁に抱きかかえられる。和名は花の形をトンボに見立てたもの。

■**分布** 県内：岩美町，米子市，日野町，日南町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：被圧防止のため湿地の草刈等の保全が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：藤原文子

ムカゴソウ ラン科

Herminium lanceum (Thunb. Ex SW.) J.Vuijk

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



三朝町 2014.8.26 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では 2014 年に三朝町内、2016 年、2020 年には琴浦町内の草原で各 1 個体ずつ確認されたラン科草本。各確認地ともにその後の調査では生育が確認できず、生育は不安定。

■**特徴**：やや湿った草地に生育する多年生草本。草丈は 20–45 cm、葉は長さ 8–20 cm、幅 5–10 mm の線形あるいは広線形。花期は 6–8 月。淡緑色の花を穂状に多数つける。

■**分布** 県内：三朝町、琴浦町。県外：北海道、本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：採取防止と草原の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ホクリクムヨウラン ラン科

Lecanorchis hokurikuensis Masam.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山町 2015.6.6 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内の常緑広葉樹林に稀産。生育地の中で年により少し違う場所に出ることもある。生育環境の変化に弱く、絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：広葉樹林下に生える。葉緑素を持たない菌従属栄養植物。主に樹木と共生しているベニタケ科の担子菌類から養分を得て生育する。根茎は深く地中に入りよく分枝する。地上茎は暗褐色で高さは 30–60 cm 内外。花期は 6 月上旬。茶褐色の花を数個総状につけ多少垂れ下がってあまり開かない。本種は花が終わった後の花茎で見つかることが多いが、形態的特徴に乏しく種レベルの同定が困難。開花しているものでもムヨウランとの区別は難しい。

■**分布** 県内：鳥取市、倉吉市、琴浦町、大山町、米子市、南部町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：低地の常緑広葉樹林の維持。

■**特記事項**：目立たない植物のため気づかれず、存在が知られぬまま開発されてしまう可能性があり注意。国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：76。

執筆：藤原文子

フガクスズムシソウ ラン科

Liparis fujisanensis F.Maek. ex F.Konta et S.Matsumoto

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2021.7.4 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内での自生確認は一カ所のみ。個体数も 10 に満たない。2018 年に倒木で確認された個体は 2020 年には消失した。

■**特徴**：ブナ帯の苔むした樹上に着生するラン科の小型多年生草本。基部に葉を 2 枚つけ縁は波打つ。6–8 月に基部から花茎を伸ばし 2–10 個のスズムシソウに似た花をつける。唇弁は大きく下方に強く湾曲する。花色は当初は褐色に近いが後に赤みを帯びてくる。クモキリソウ属で着生する種はめずらしい。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道–九州。朝鮮半島。

■**保護上の留意点**：ブナ帯の自然植生保護。厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：岡田祐哉

ジガバチソウ ラン科

Liparis krameri Franch. et Sav. var. *krameri*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2021.5.31 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は限られており生育本数は少ない。生育地の状況は改善していないが、新たに生育地が見つかるなどしたため CR+EN から VU に変更した。

■**特徴**：山地のやや乾燥ぎみの林内や岩上に生育するラン科の多年生草本。葉は卵形—広卵形で長さ 3–10 cm。クモキリソウやアキタスズムシソウの葉によく似ているが、葉縁が細かく波状に縮れるのが特徴。6 月頃 10–20 cm の花茎に淡緑色—暗紫色の花を 10 個前後つける。生育地の多くは、日当たりのよい崖地などである。

■**分布** 県内：鳥取市用瀬町，若桜町，智頭町，八頭町，三朝町，江府町，日野町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：環境の変化が少ない林内や岩上に生育しているが、個体が消失し数が減少している。園芸目的の採取防止が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

アキタスズムシソウ ラン科

Liparis longiracemosa Tsutsumi, T.Yukawa et M.Kato

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2017.6.6 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地が限られており，生育個体数もきわめて少ない。除草で刈り払われたり採取圧が高く，絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：2019 年に新種記載された種で，山地のやや湿った林内に生育するラン科の多年生草本。高さは 40 cm に達し，長さ 10–18 cm の卵形—卵形長楕円形の葉が互いに 2 枚出て花茎を抱く。花期は 6 月上—中旬で，茎の上部に淡緑色—帯紫色の花をまばらに 10–40 個つける。県内では，大山と氷ノ山で確認されている。

■**分布** 県内：氷ノ山，大山。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：2012 年の改訂版では「セイタカスズムシソウの近縁種」として掲載したもの。

■**文献**：110。

執筆：矢田貝繁明

フウラン ラン科

Neofinetia falcata (Thunb.) Hu

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市 2021.7.18 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内では低地部を中心に比較的広く分布しているものの，生育には古木の森が必要であり，そのような森が減少している。採取圧も高く，手が届く場所にはみられない。

■**特徴**：スダジイ等の大木や岩に着生するラン科の常緑多年生草本。厚く硬い葉を放射状に展開する。太い根を持ち枝や幹に張り付く。6–7 月に芳香のある白い花を小数つける。花には著しく長い距がある。着生植物の中では比較的乾燥に強い。寒さにはあまり強くないようで沿岸域に多く内陸部ではみかけない。園芸採取により消滅した話をよく聞く種でもある。

■**分布** 県内：低地部に点在。県外：本州中部以南，沖縄。朝鮮半島，中国。

■**保護上の留意点**：採取防止。照葉樹林の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：岡田祐哉

ノビネチドリ ラン科

Neolindleya camtschatica (Cham.) Nevski

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



大山町 2015.6.10 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は大山に限られ、種の存続に支障をきたすほど個体数が著しく減少している。盗採や生育地の崩落、周辺植生の変化など生育条件が悪化している。

■**特徴**：ブナ帯—亜高山帯域に生育するラン科の多年生草本。茎は直立し高さ30–60 cmになる。葉は縁が波状で5–10枚が互生し、上のものほど細くなる。花期は6月で穂状花序に淡紅色の花が多数つく。大山では標高1400 m以上の草地の一部にわずかに生育している。県内東部でも高標高域の林道法面で確認例があったが、10年以上見つからない。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止，草原の維持管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ヨウラクラン ラン科

Oberonia japonica (Maxim.) Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市 2021.5.29 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：もともと生育に適した地域は少なく，山間部の生育環境の悪化や近年の豪雨により生育地周辺の荒廃も見られるが，生育状況は比較的安定している。

■**特徴**：渓谷沿いの樹木の樹幹や枝，岩上に下垂して着生する小形の常緑ラン科草本。細い気根を基部から伸ばし数個の茎を叢生，長さ2–5 cmになる。明緑色でやや肉厚の葉は互生し，線状長楕円形で鎌状に外曲し，左右に扁平に10枚程度つく。4–6月に，茎頂に2–8 cmの穂状花序を伸ばし，1 mmほどの微小で緑黄色の花が多数つく。和名は長く下垂する穂状花序の仏教上の垂れ飾り「瓔落（ようらく）」に見立てたもの。目立たない花のため，採取被害は緩やかである。緊急性は和らいでいる。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市，佐治町），三朝町，南部町。県外：本州関東以西，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：渓谷に沿うやや明るい尾根状の岩角地の樹木に着生する傾向がある。渓谷沿いの自然林や周辺の植生の保護が必要。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：松本 綾

サギソウ ラン科

Pecteilis radiata (Thunb.) Raf.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2021.8.5 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内には自生に適した湿地が少ないうえ，自生地の環境条件も悪化している。園芸目的の採取圧もあり，絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：低山地の日当たりのよい湿地に生育するラン科の多年生草本。地下に走出枝を伸ばして球茎をつくる。茎は直立し15–40 cm程度になる。葉は線形で数枚が根出し，上部に鱗片葉がつく。花期は7–8月。白い幅の広い唇弁をつけ，縁が糸状に裂けて独特の形となり距は3 cmにも達する。園芸的な人気が高い。県内西部でも改めて生育が確認されたが個体数は少なく，採取圧も高いのでいつ絶滅してもおかしくない。サギソウは栽培品も多い。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市国府町，米子市，日南町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿原環境の維持と自生地の植生管理。厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆：永松 大

ジンバイソウ ラン科
Platanthera florentii Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



日野町 2021.8.22 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内の生育地はブナ林に限られるため、ブナ林の減少とともに少なくなっている。

■**特徴**：ブナ林下に生えるラン科の多年生草本。数個体が群生することが多い。高さ 30 cm ほどになる。葉は 2 枚、長楕円形で同形同大。光沢があり長さ 10 cm 程度、葉は波状にちぢれ、茎の下部に対生状に接してつく。鱗片葉は花茎に数個、披針形、先端が曲がり下向する。花期は 8-9 月、穂状に淡緑色の花を 5-10 個程度つける。萼片はやや厚い。唇弁は広線形、距は前方に湾曲し長い。ブナ林下の山道周辺に生育することが多い。目立たないため採取はないが、踏みつけられることがある。

■**分布** 県内：氷ノ山、三国山、大山、烏ヶ山、毛無山、日野町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：ブナ林の保護、山道の手入れに注意を要する。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ミズチドリ ラン科
Platanthera hologlottis Maxim.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



岩美町 2021.6.20 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は山間湿地に隔離分布し、面積が狭く、個体数も少ない。湿地の生育環境の悪化により減少傾向である。

■**特徴**：山地湿原に生育する中型の多年生草本。茎は直立し高さ 60 cm 程度になる。葉は披針形、下部の数枚は大形で次第に小さくなる。花期は 6-7 月、茎の先端に白花が次第に咲きあがり円錐状になる。唇弁は舌状、倒卵形、香気があり美しい。和名は花の形を千鳥になぞらえてもの。岩美町菅野湿原は県指定天然記念物、県環境保全地域に指定されている。水路洗掘により開水域が狭くなっているため手入れが必要である。西部の山地湿地は狭く開水面が少なく、個体数はわずかである。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市国府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地の保全管理。採取禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

マイサギソウ ラン科
Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *neglecta* (Schltr.) F.Maek. ex K.Inoue

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



大山町 2020.6.29 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山の登山道横や草地に生育するが、個体数がきわめて少ない。ツレサギソウ属は類似種が多く、今後より詳しい調査研究が望まれる。

■**特徴**：冷温帯-暖温帯の明るい草原や林縁に生育するラン科多年生草本。葉は下部の 1 枚が大きく、線状広楕円形で基部はわずかに茎を抱く。茎の上部の苞は披針形で小さい。花期は 7 月で、10 個前後の黄緑色の花を穂状につける。距は 11-18 mm で明確に上方に伸びる。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：66.

執筆：矢田貝繁明

ヤマサギソウ ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *mandarinorum* var. *oreades* (Franch. et Sav.) Koidz.

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



大山町 2014.7.21 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山の標高 1300 m 以上の草地に生育し、生育地が限られ個体数もわずか。ツレサギソウ属は類似種が多く、今後より詳しい調査研究が望まれる。

■**特徴**：日当たりのよい草原に生育するラン科多年生草本。茎には縦の稜がある。葉は最下部の1枚が大きく狭長楕円形—線状長楕円形で長さ 5–11 cm、幅 1–1.5 cm になる。その上に 2–5 個の披針形の鱗片葉がつく。花期は 7 月で、総状花序に淡黄緑色の花を 5–15 個つける。距は 7–15 mm になり、後方に水平、またはやや下方に伸びる。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：66。

執筆：矢田貝繁明

マンシュウヤマサギソウ ラン科

Platanthera mandarinorum Rchb.f. subsp. *maximowicziana* (Schltr.) K.Inoue var. *cornu-bovis* (Nevski) Kitag.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



智頭町 2019.7.2 / 撮影：一澤麻子

■**選定理由**：生育地が限られ個体数も少ない。シカ食害の影響もある。

■**特徴**：山地の湿った草地や湿原，湿り気のある明るい林縁に生育する多年生草本。茎は直立し高さ 25–50 cm。最下葉は大きく、茎を抱き長楕円形から広卵形まで変異がある。上部の葉は被針形。6–7 月に総状花序を形成し 5–15 個程度花を付ける。花は緑白色。距は長く 2–3 cm、斜め下に下がる。背萼片は卵形—広卵形。本種を含むツレサギソウ属の分類には未整理の部分があるが、最下葉の形態が卵形であること、背萼片の幅が約 4 mm で広卵形であること、距の形態や 20 mm と長いことなどにより本種に識別される。形態やサイズの変異幅は更なる検討が必要である。県内東部ではニホンジカの食害により矮化や個体数減少が見られ、消滅した生育地もある。

■**分布** 県内：智頭町，大山町，江府町。県外：本州（鳥取県以北），北海道。

■**保護上の留意点**：自生地の環境保全。シカ食害からの保護対策。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：51, 66, 108。

執筆：一澤麻子

ヒトツバキソチドリ ラン科

Platanthera ophrydioides F.Schmidt var. *monophylla* Honda

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2021.8.2 / 撮影：澤田達也

■**選定理由**：県内の生育箇所，生育個体数ともにきわめて少ない。現在知られている生育地はシカ食害が激しく，食害や周辺環境の変化により絶滅の危険性が大きい。

■**特徴**：亜高山帯の針葉樹林下に生育する多年草。高さ 15–30 cm で、茎は細く稜線がある。葉は、茎の下方に長さ 3–6 cm、幅 1–3 cm のやや光沢のある楕円形の葉を 1 個つけ、茎を抱く。鱗片葉は披針形で 1–2 個。花期は 7–8 月で、淡黄緑色の小花を 5–15 個、穂状につける。距は、唇弁よりやや長く後方に伸びるか前に垂れ下向きに湾曲する。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：ニホンジカの適正管理，採取防止。

執筆：澤田達也

コバノトンボソウ ラン科

Platanthera tipuloides (L.f.) Lindl. subsp. *nipponica* (Makino) Murata

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



江府町 2021.7.13 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では孤立した山地湿原にわずかに残り、それぞれの個体数は少ない。湿原の乾燥化などの変化により存続が危ぶまれる。

■**特徴**：日当たりのよい山地湿原に生育するラン科の多年生草本。茎は直立し高さ30–40 cmになる。葉は1枚で狭長楕円形、長さ3–7 cm。花は7月初–中旬に咲き、淡黄緑色で少数つける。距は長く弓状に曲がって跳ね上がる。県内生育地では、湿地のオオミズゴケの中を中心に生育している。

■**分布** 県内：岩美町、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿原の維持、乾燥化防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

トキソウ ラン科

Pogonia japonica Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子市 2020.5.30 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の山地湿原に隔離分布する。湿原のオオミズゴケの中などに生育するため、ヨシなどが増えた生育地では個体数が減少している。湿原の乾燥化や樹林化による生育環境の悪化も懸念材料である。

■**特徴**：日当たりの良い山地湿原に生育する小形のラン科多年生草本。茎は高さ15–25 cm。茎の中央部に狭長楕円形の葉が1枚つく。6月上–下旬に淡紅色の花を1個つける。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市 (国府町、佐治町)、三朝町、米子市、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿原の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ヤマトキシソウ ラン科

Pogonia minor (Makino) Makino

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2021.7.2 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は点在し生育個体数も少ない。生育する草原の樹林化が進行し生育環境が悪化している場所もある。大山の風衝草原では比較的安定しているため、今回VUに変更した。

■**特徴**：日当たりのよい山地草原に生育するラン科多年生草本。草丈は15 cm前後。葉はやや厚く、長楕円形で茎の中央やや上に1枚つける。花期は7月で、茎の先端に上向きの花を1個つける。淡桃色で花冠は好天時にやや開く。トキシソウよりも少し小ぶり。

■**分布** 県内：若桜町、大山町、江府町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地草原の維持管理、採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ヒナチドリ ラン科

Ponerorchis chidori (Makino) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2019.7.12 / 撮影：岡田祐哉

■**選定理由**：県内の自生確認地は1カ所のみ。森が明るくなり以前より個体数が減っている。環境変化に弱く将来的に絶滅するおそれがある。

■**特徴**：冷温帯で樹幹や樹上に着生するラン科の多年生草本。広披針形の葉を一枚つけ茎は斜上して草丈15 cmほどになる。7-8月に淡い紅紫の花を兜状に3-10個つける。地上から10 m以上の高さに着生していることがほとんどのため、花期でないと発見するのは困難。沢の近くで湿度が保たれ涼しい場所を好む。

■**分布** 県内：非公開。県外：北海道，本州，四国。

■**保護上の留意点**：自然植生の保護，急激な環境変化の防止。採取防止。

■**特記事項**：森林内が明るくなっただけで個体数が減っていることから環境維持が最も重要。ナラ枯れの影響が心配される。

執筆者：岡田祐哉

ウチョウラン ラン科

Ponerorchis graminifolia Rchb.f. var. *graminifolia*

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取県内 2021.7.27 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は極めて限定されている。1980年代には専門業者や愛好家が本種を乱獲し激減したと言われ，今もザイルの痕跡が残っている。今日，種の存続が難しいほど個体数が少ないままで，絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：明るい崖の岩隙に生育するラン科の多年生草本。茎は斜上し高さ10 cm前後で，広線形の葉を数枚つける。6月下旬-7月上旬に紅紫色の花を数個咲かせる。過去に採取が行われた痕跡がある自生地では，最盛期から40年以上が経過した現在でも回復がみられず，乱獲の影響は根深い。

■**分布** 県内：非公開。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：近年は生育環境の大きな変化は見られないが，嚴重な採取防止が必要。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：矢田貝繁明

クモラン ラン科

Taeniophyllum glandulosum Blume

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



三朝町 2018.6.1 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では2018年に初確認された種。1地点でしか見つかっておらず生育個体数はきわめて少ない。発見時点で着生木が枯死しており，2021年にはこれが倒れて着生が確認できなくなった。周囲でも見つからず絶滅の可能性はある。

■**特徴**：樹木の枝や幹に着生する常緑のラン科多年生草本。根を放射状に出して樹皮に密着し短い茎をもつ。通常は葉をもたず根が光合成を行っているときとされる。初夏に緑色の小さな花を咲かせるが目立たない。落下した枯れ枝に着生しているのが発見されたが，目立たないため生育は見つけにくい。

■**分布** 県内：三朝町。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：健全な照葉樹林の維持。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：69。

執筆者：矢田貝繁明

カヤラン ラン科
Thrixspermum japonicum (Miq.) Rchb.f.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



鳥取市 2020.5.8 / 撮影：長棟光祐

■**選定理由**：県内では局所的に生育するのみ。確認地でも着生している樹木の衰退によりしばしば個体数は減少する。採取圧も高い。2020年にも強風で1個体が落下し消失した。

■**特徴**：空中湿度の高い溪流沿いの樹木に着生する常緑性ラン科植物。比較的高所に生育するため、花期以外の発見は難しい。葉は暗緑色で互生し、水平状に開平する。和名はカヤの葉に似ること由来する。花期は4月下旬—5月上旬。花は淡黄色で目立ち、果実は円柱状である。着生枝に多く根を伸ばし、下垂するように生育する個体も確認されている。人為的な採取以外にも強風・積雪等に伴う落下や着生した樹木の衰退による個体数減少が危惧される。撮影地では着生枝の衰退が目立ち、今後注意が必要。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市、佐治町）、日野町。県外：本州（岩手県以南）、四国、九州。済州島、中国南部。

■**保護上の留意点**：着生樹木、および周辺環境の保護。厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：106, 108.

執筆：長棟光祐

ヒトツボクロ ラン科
Tipularia japonica Matsum. var. *japonica*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2018.6.12 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地は限られ生育本数が少ないため、2012年改訂版ではVU判定とした。その後新たに数カ所の生育地が確認されたため、今回はNTと評価した。

■**特徴**：山地の樹林内に生育するラン科多年生草本。通常は葉を1枚つけ、狭卵形で長さ3—7cm、先端はとがる。長さ3—7cmの葉柄をもつ。6月中旬、10cm前後の花茎に淡黄緑色の小さい花を5—10個つける。植物体は目立たず群生しないので、今後の調査努力が必要である。県内生育地の多くはアカマツ林またはスギ造林地で、森林作業による林床の攪乱が生育に影響する可能性もある。

■**分布** 県内：伯耆町、江府町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の現在の環境維持と採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ショウキラン ラン科
Yuania japonica Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



智頭町 2021.6.1 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：深山林下、渓谷の不安定な林床に生育するので絶えず生育場所が変わり、県内での自生確認は多くない。森林の伐採、倒木などの環境変化が個体数減少につながる。

■**特徴**：ブナ帯域の林内、渓谷沿いの腐植堆積地に生える菌従属栄養の多年生ラン科草本。根茎は長く伸びる。花茎は高さ20cm内外。鱗片葉は半月形で開出。花期は7—8月、茎上部の葉腋に淡紅紫色で長柄の花が2—3個つく。花弁と萼片はほぼ同長で楕円形。距は長楕円形で淡黄色。和名は鐘馗を連想したもの。個体の位置は環境変化により数年で絶えず変わる。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、若桜町、智頭町、三朝町、琴浦町、日南町。県外：北海道南部、本州、四国、九州、屋久島。

■**保護上の留意点**：ブナ帯域の自然植生森林保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

コキンバイザサ キンバイザサ科

Hypoxis aurea Lour.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2021.6.5 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内で生育が確認されているのは、年2回の草刈りが行われている溜め池畔の湿地に限られ、生育個体数はわずか。管理形態が変われば絶滅のおそれが高い。

■**特徴**：湿り気の多い暖地の草地に生える多年生草本。葉は根生し外側のものは短く、内側のものは線形で長さ20–30 cm、細長毛を散生するのが特徴的。花茎は葉腋からでて長さ10 cmほど、5–6月に1–2個の黄色の花を咲かせる。全体に白い毛が多く、特に外花被片の先端が目立つ。

■**分布** 県内：米子市。県外：本州（宮城県以南）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：草刈り管理の継続。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：矢田貝繁明

ヒオウギ アヤメ科

Iris domestica (L.) Goldblatt et Mabb.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



琴浦町 2011.8.2 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内に自生と考えられる集団がわずかにあるが、その個体数が激減している。2010年には5株が確認できたが、2021年に確認できたのは2株のみ。

■**特徴**：山地の草原に生育する多年生草本。高さ60–80 cmになり、葉は扇状に広がる。花期は8月中–9月上旬で花被片はオレンジ色、内面に暗赤色の斑点がある。種子は黒い光沢があり「ぬぼたま」と呼ばれる。花が美しく栽培もされるが、当該の集団は古くから岩場に生育しており自生と考えられる。しかし近年、周辺の樹林化のため減少している。

■**分布** 県内：琴浦町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の環境維持、栽培種の野外逸出防止。

執筆：矢田貝繁明

ハナショウブ アヤメ科

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai ex Makino et Nemoto

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2021.7.2 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：生育していた山地の湿地や湿った草原が管理放棄されるなどして自生地、個体数ともに減少している。

■**特徴**：湿地や湿った草原に生える多年生草本。高さ50–80 cm内外。葉は互生し、葉身は剣状広線形。花期は6–7月。紅紫色で外花被片は広卵形、基部に黄色の筋が入る。よく似たカキツバタは葉の中肋が目立たない。ノハナショウブは県内では西部に分布が多い。

■**分布** 県内：三朝町、倉吉市関金町、大山町、南部町、江府町、日野町、日南町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地の湿原や湿地の維持管理。採取禁止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：藤原文子

カキツバタ アヤメ科
Iris laevigata Fisch.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2021.5.22 / 撮影：松本 綾

■**選定理由**：人為改変や気候変化，管理不足によって湿原環境が減少しており，本種の生育状況も悪化している。

■**特徴**：湿地流水部に群生する多年生草本。高さ約 70 cm。根茎は横走する。葉は広線形で長さ 30–70 cm，中肋は不明瞭。花期は 5–6 月。花は濃青紫色で，外花被片基部の斑紋は筋状白黄色，網脈模様を欠く。類似のノハナショウブは花色が紅紫色，葉の中肋明瞭。和名はカキツバタを布に押し付けて染めたという意味で「書き付け花」に由来。近年の気候変動により湿地環境の悪化と減少が見られ，「唐川のカキツバタ群落」のように，公的に維持管理されている湿地は少ない。継続的な調査と湿地および周辺環境の維持管理が必要である。

■**分布** 県内：岩美町，鳥取市国府町，伯耆町，南部町。 県外：北海道，本州，四国，九州。朝鮮半島，中国東北部，シベリア東部。

■**保護上の留意点**：湿地環境の保護・保全。湿地周辺自然林の保全。

■**特記事項**：国指定天然記念物「唐川のカキツバタ群落」。

執筆者：松本 綾

アヤメ アヤメ科
Iris sanguinea Hornem. var. *sanguinea*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日野町 2021.5.20 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内の生育地，生育個体数ともに少ない。生育に適した草地等の減少が著しい。道端や畦道などでも生育しているが，植栽されたものが多く詳しい調査が必要である。

■**特徴**：山野の草地に生育する高さ 30–60 cm の多年生草本。葉は長さ 30–60 cm，幅 0.5–1 cm の剣状で先端は尖る。花期は 5 月で，径 6–7 cm の青紫色の花を 2 個つけ，外花被片に網目模様がある。ノハナショウブやカキツバタはやや湿った場所に生育し，高さ 70–80 cm になるが，本種はやや乾いた場所でも生育し前者に比べやや小さい。県内での自生は今のところ中部と西部から報告がある。

■**分布** 県内：三朝町，伯耆町，日野町。 県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：草地の維持管理。

執筆者：矢田貝繁明

ノカンゾウ ススキノキ科
Hemerocallis fulva L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.7.29 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では生育している場所が限られていて個体数も少ない。耕作放棄地や道路沿いに生育している個体は草刈り時に刈られてしまうことが多い。

■**特徴**：畦畔や野原に生える多年生草本。根茎は長くは，根に時にふくらみがある。葉は長さ 50–70 cm 内外，幅 10–15 mm。莖高は 50–70 cm 内外。上部に小型の苞がつく。花は 7–8 月，花序は 2 分してそれぞれに 10 花内外が開く。花被片は橙赤色でほとんど同形，長さ 7–8 cm，先はやや反り返る。花筒は長さ 2–4 cm あって他種よりはるかに長いのが特徴。雄しべは 6 個，花被片より短い。結実することは少ない。原野に多いのでノカンゾウという。花色に変化が多い。

■**分布** 県内：南部町，日南町。 県外：本州—沖縄。中国，台湾。

■**保護上の留意点**：自生する湿地の草刈りなど保全が必要。

■**文献**：83.

執筆者：藤原文子

ギョウジャニンニク ヒガンバナ科

Allium victorialis L. subsp. *platyphyllum* Hultén

鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

環境省：—



若桜町 2008年頃／撮影：山本賢二

■**選定理由**：県内での自生地は1カ所のみ。そこでもシカの食害により急崖にわずかに残るのみで、以前の10分の1の規模に減少した。

■**特徴**：深山の林内に生育する夏緑性多年生草本。県内では渓谷沿いの岩角地の土壌堆積地に生育する。遺存植物。鱗茎は細長く古い葉鞘がシュロ状になって残る。ネギ臭が強い。葉は茎の下部に2-3枚つけ、長楕円形、大形で長さ20-30cm、幅3-10cm。鈍頭で基部はくさび形、葉鞘は長く茎を抱く。花期は6-7月、茎頂に散形花序をつけ、白色の花が多数咲く。花茎の長さは40-70cm。和名は行者が食用にしていたことに由来。

■**分布** 県内：若桜町。県外：北海道、本州近畿以北。

■**保護上の留意点**：厳重な採取防止、ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

執筆者：山本賢二

オヒガンギボウシ キジカクシ科

Hosta longipes (Franch. et Sav.) Matsum. var. *aequinoctiantha* (Koidz. ex Araki) Kitam.

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

環境省：—



若桜町 2020.8.10／撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では以前から、この少し異なるギボウシ類の存在が知られていたが、2020年にオヒガンギボウシと同定された。ブナ帯域の溪流沿いの大径木や崖地に生育する多年生草本で、生育地が極めて限定される。

■**特徴**：イワギボウシの変種とされ、溪流沿いの岩場などに着生する多年生草本。花期は8月下旬-9月。青紫色の花を10-20個つけ、花が終わっても苞は枯れず緑色のまま残る。葉はやや厚く、葉脈数が少なく葉裏の脈上突起物もなくなめらか。狭義のイワギボウシは中部-東北に分布する。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（中部、近畿、中国）。

■**保護上の留意点**：シカ食害の防止。

■**文献**：96.

執筆者：矢田貝繁明

ノシラン キジカクシ科

Ophiopogon jaburan (Siebold) Lodd.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



湯梨浜町 2020.8.12／撮影：清末幸久

■**選定理由**：自生地は限定的で県内で確認されている自生地は3カ所だが、生育環境・個体数とも安定していることから今回VUからNTへ変更した。

■**特徴**：海岸近くの林の中に生える多年生草本。葉は常緑で厚く線形で長さ30-80cm、幅7-15mm。花茎は30-50cmで扁平、花期は7-9月。白色の花を密に下向きにつけ、種子は青色に熟す。観賞用の需要があり、採取される可能性がある。

■**分布** 県内：岩美町、湯梨浜町、米子市。県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。朝鮮半島南部。

■**保護上の留意点**：地元への啓発。自生地の植生管理と採取防止。

■**文献**：108.

執筆者：清末幸久

ミドリヨウラク キジカクシ科
Polygonatum inflatum Kom.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



日南町 2016.6.18 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育地に限られ個体数も少なく、分布が限られている。以前から県内で確認されており標本も採集されていたが、標本や「レッドデータブックとっとり」初版、改訂版調査ともにヒメナベワリに誤同定されていた。その後ミドリヨウラクと判明した。

■**特徴**：山地林内に生育する大陸系の植物で、高さ 30–70 cm の多年生草本。葉は長楕円形でやや薄く、長さ 10–15 cm で裏面は白色を帯びる。花期は 6 月頃。葉腋から花柄を下垂させ 3–7 個の淡緑色の花をつける。県内自生地はスギ造林地内で、分布北限の可能性はある。

■**分布** 県内：日南町。県外：本州（広島県）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：森林管理者との情報共有、生育地の間伐や伐採時の対策が必要。

執筆：矢田貝繁明

ミズアオイ ミズアオイ科
Monochoria korsakowii Regel et Maack

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2017.8.29 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：以前は倉吉市と岩美町の県内 2 カ所で確認されていたが、倉吉市では 2005 年以降は見つかっていない。岩美町では 2019 年には数株が残っていたが、2021 年は小型化した 1–2 株が確認されるのみで絶滅寸前。

■**特徴**：平野部の用水路やため池、河川の停留水域に生育する 1 年生抽水草本。高さ 20–40 cm。根生葉は長柄があり、長さ、幅ともに 4–15 cm、厚くてつやがある。

■**分布** 県内：岩美町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：水辺環境の保全。河川改修に注意。岩美町の自生地では雑草の除去を含む自生環境の改善が急務。

■**特記事項**：鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：井上喜美子

ミクリ ガマ科
Sparganium erectum L.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市河原町 2020.7.3 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：千代川、天神川の河川敷や用水路に点在するが、改修によるコンクリート化のため生育適地が減少している。また近年の大雨で流された群落も多く個体数が減少している。

■**特徴**：河川敷、用水路に群生する多年生の抽水植物。地下茎が横走して新しい株を出し、群落を作る。茎は直立して高さ 1 m 内外。葉は線形でやわらかい。花期は 6–9 月。花序の枝が 3 本以上ある。花序の枝の下部に雌性頭花数個、上部に雄性頭花を多数つける。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市、河原町）、八頭町、倉吉市、大山町、伯耆町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：用水路、河川敷の水辺の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：米澤朋子

ヤマトミクリ ガマ科

Sparganium fallax Graebn.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



岩美町 2021.6.20 / 撮影：米澤朋子

■**選定理由**：県内ではため池や湿地で数カ所確認されているが、生育地である湿地の環境変化により生育適地が減少する危険性が高い。東部の湿地では大型の草本類が増えて減少傾向であったが、天然記念物指定地のため現在は植生管理がされて状況は落ち着いている。

■**特徴**：湿地，ため池の湿地化した場所に生える多年生の抽水植物。浅い水深の泥地に群生する。花茎は高さ1m程度。葉は裏面に稜がある。花期は5-9月，花序は分枝しない。花序の下部は雌性頭花で，柄の全部または一部が主軸と合着する（腋上性）ため，苞の反対側につくように見える。上部のものは雄性頭花。果実は紡錘形，中央部がくびれる。

■**分布** 県内：岩美町，伯耆町，日野町，日南町。県外：本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：湿地の植生保護，大型草本の刈り取り。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：米澤朋子

ナガエミクリ ガマ科

Sparganium japonicum Rothert

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



鳥取市 2021.9.12 / 撮影：米澤朋子

■**選定理由**：県内では，河川敷，用水路，ため池など数カ所で見られるが，河川敷やため池の改修や用水路のコンクリート化により生育地が減少傾向にある。

■**特徴**：低地の河川敷，用水路，ため池に群生する多年生の抽水植物。流水中ではしばしば沈水形をとり群生している。花期は6-9月，花序は分枝しない。下部の雌性頭花には数cmの柄があり，主軸とは合着しない（腋性）。ミクリとは花序が分枝せず，果実が細長い紡錘形であることで，ヤマトミクリとは最下の雌性頭花が腋性であることで区別できる。

■**分布** 県内：鳥取市（旧市，気高町），八頭町，倉吉市，北栄町，米子市，日吉津村，大山町，伯耆町，南部町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：用水路，河川敷の水辺の保護。

■**文献**：108。

執筆：米澤朋子

ヒメミクリ ガマ科

Sparganium subglobosum Morong

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市国府町 2021.6.20 / 撮影：米澤朋子

■**選定理由**：県内では東部の湿地と西部のため池に少数見られるのみ。周辺の草本に覆われるなど環境変化のため個体数が減少している。

■**特徴**：湿地，ため池の浅い水深の泥地に群生する多年生植物。ヤマトミクリに比べやや小さく，高さ60cmぐらい，葉の幅もやや狭い。花期は6-9月で花序は分枝しない。雌性頭花は着生か花序の下部の苞の腋から1-2本の短い枝が伸びてつく場合がある。果実は倒卵形。

■**分布** 県内：鳥取市国府町，伯耆町，南部町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州，沖縄。

■**保護上の留意点**：湿地ため池の保全と植生の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：108。

執筆：米澤朋子

コガマ ガマ科

Typha orientalis C.Presl

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



米子市 2021.7.23 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では過去に南部町内で採取された標本があるだけで現存は確認できなかった。2021年に西部地区の休耕田内で生育が確認されたが、生育地、個体数ともにごく少ない。現在の生育地は、今後の管理や開発による環境変化が心配される。

■**特徴**：湖沼やため池、水路、休耕田などの湿地に生育する多年生の抽水植物。高さ1.5 m以下で、葉の幅は5–8 mmとガマやヒメガマに比べて狭い。花期は7–8月と遅く、雌花群は長さ4–12 cm、雄花群は長さ3–9 cmで、雄花群は雌花群と接する。花粉は単粒。

■**分布** 県内：米子市、米子市淀江町。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育湿地の保全。

■**文献**：26.

執筆：矢田貝繁明

クロホシクサ ホシクサ科

Eriocaulon parvum Koern.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



鳥取市福部町 2017.9.4 / 撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では限られた湿地にわずかに生育するのみ。

■**特徴**：日当たりのよい湿地に生える1年生草本。茎はごく短く、葉はロゼット状に多数つき、線形で長さ4–10 cm。花茎は高さ5–20 cmほどで多少ねじれる、ホシクサより少し大きめ。花期は9月、頭花は球形で径5 mmほど、全体に黒藍色をおび白色の短毛が目立つ。雌雄異花で雄花と雌花が頭花に密につく。県内ではもともと生育は少ないと考えられるが、除草剤の使用や圃場整備、ため池の改修工事が希少化に拍車をかけたと想定される。県内では水辺での今後の調査努力が必要。

■**分布** 県内：鳥取市福部町。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：湿原環境の維持。目立たないため、湿地改変時には詳細な調査が必要。

執筆：永松 大

コウキヤガラ カヤツリグサ科

Bolboschoenus koshevnikovii (Litv. ex Zinger) A.E.Kozhev. n.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



鳥取市青谷町 2020.6.9 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では海岸干拓地に残る浅水域や磯のタイドプールに見られるが分布地は少ない。干拓地の陸地化がすみ太陽光発電用地となり生育適地が減少している。

■**特徴**：海岸干拓地や水田に群生する多年生の抽水・湿生植物。地下茎が横走り先端に塊茎がある。茎は3稜、高さ1 m程度になる。花期は6–8月、花序は頂部に密集し、柄のある1–2個の小穂をつける。苞葉は3枚で花序より長い。果実は広卵形、断面レンズ状。柱頭は2裂する。県内東部では鳥取市青谷町のみ、西部は中海沿いの湿地環境悪化のため減少している。

■**分布** 県内：鳥取市青谷町、米子市。県外：本州、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：海岸沿いの湿原・湿地の保全。

■**文献**：81.

執筆：坂田成孝

ベニイトスゲ カヤツリグサ科

Carex alterniflora Ohwi var. *rubrovaginata* (J.Oda et Nagam.) Yonek.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日野町 2020.5.13 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：本州近畿以西に分布する暖地性の種で、県内では西部に稀産。生育地が山間の草地に限定されるので生育環境の維持が困難である。

■**特徴**：山間の草地に生え、まばらに叢生する多年生草本。匍匐枝を出して繁殖する。基部の鞘や雄小穂が赤紫褐色。有花茎は高さ 30 cm 内外になる。葉は小穂と同じかやや長い。雌小穂はやや離れてつく。嘴の長さは中位。生育地の草地に他の草本類が繁殖し減少している。

■**分布** 県内：日野町。県外：本州（近畿以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：里山の自然環境と谷間の草地の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：81.

執筆：坂田成孝

ヒルゼンスゲ カヤツリグサ科

Carex aphyllopus Kük. var. *impura* (Ohwi) T.Koyama comb. nud.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



倉吉市関金町 2013.7.3 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では蒜山の県境付近にのみ生育する。蒜山では鳥取県側の草地は少なく個体数はわずかである。

■**特徴**：蒜山尾根の草地に生える多年生草本。茎は高さ 1 m 程度になる。葉は有花茎より長く、裏面灰緑色。基部の鞘は赤褐色。小穂は上部の 1-3 個は雄性、線柱形。側小穂は雌性で円柱形。果苞は長卵形、長さ 3.5 mm 以上、雌鱗片と同長か長い。柱頭 2 岐。ヒルゼンスゲは北陸地方に広く分布するタテヤマスゲから分化し、遺存的に蒜山に残ったものと考えられている。

■**分布** 県内：倉吉市関金町。県外：岡山県。

■**保護上の留意点**：山地草原の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：12, 81.

執筆：坂田成孝

クロカワズスゲ カヤツリグサ科

Carex arenicola F.Schmidt

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



江府町 2012.6.29 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の生育地は限られた湿地周辺のみ。湿地の自然環境変化により自生地の環境が悪化している。

■**特徴**：海岸から山地の砂質の湿地に疎生する多年生草本。匍匐枝は横に長くはい群落をつくる。葉は幅 2 mm 程度。有花茎は高さ 20 cm 程度、茎の上部に無柄小穂が集まってつく。小穂は雌雄性で、上部に雄花、基部に雌花をつける。雌鱗片は果胞と同長、褐色を帯びる。果胞は卵形、長嘴、口部は斜切、熟すと褐色を帯びる。ミノボロスゲ類と紛らわしいが、ミノボロスゲ類は根茎が短く株立ちになり、無柄小穂がやや離れてつく。海岸の湿地などをさらに調査する必要がある。

■**分布** 県内：米子市、江府町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：湿地周辺の草地維持。草刈り管理の必要がある。

■**文献**：81.

執筆：坂田成孝

カンサイワスゲ カヤツリグサ科
Carex chrysolepis Franch. et Sav. var. *glabrior* (Ohwi) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2018.6.6 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：全国的に少なく、本州では大峰山と氷ノ山のみ産する。県内の自生地は氷ノ山のごく一部で、個体数は極少。

■**特徴**：岩の割れ目に根を下ろし叢生し、株状になるかマット状になる多年生草本。基部の鞘は淡褐色で繊維に分解する。葉は有花茎と同じか長い。有花茎は長さ 40 cm 程度になり、頂小穂は雄性で褐色、側小穂は雌性で長さ 2 cm 前後、2-3 個離れてつき、下方のものは柄が長い。雄鱗片は鋭頭。果胞は狭長楕円形で鱗片より長く有毛。柱頭は 3 岐。生育地は氷ノ山の岩頭で風当たりが強く厳しい環境である。ミヤマワスゲに似るが、カンサイワスゲは匍匐枝がなく、雄小穂が短かく淡褐色、果胞と嘴が短い点が区別点。

■**分布** 県内：氷ノ山。 県外：本州（近畿地方）。

■**保護上の留意点**：岩頭は狭く崩壊のおそれもある。嚴重な採取防止が必要。

■**文献**：29, 81.

執筆者：坂田成孝

ダイセンスゲ カヤツリグサ科
Carex daisenensis Nakai

鳥取県：その他の重要種 (OT)
環境省：—



八頭町 2021.5.11 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では海岸から山地まで全域に点在するが、ダイセンの名が付き、分布の中心にあたることからその他の重要種にあげている。

■**特徴**：県内の低山から山地の落葉広葉樹林内のやや明るい林下、林縁、草地などに生育する多年生草本。根茎は密に叢生する。基部の鞘は黒褐色で古くなると著しく細裂して繊維状になる。葉は有花茎と同じかやや長く、幅 5 mm 程度で深緑色。有花茎は高さ 30 cm ほどになり、頂小穂は雄性で線柱形、緑白色で長さ 3 cm ほど。側小穂は雌性で 2-4 個、離れてつき直立する。果胞は長さ 4 mm 前後、脈に毛があり嘴はやや長く、口部に 2 小歯がある。県内に多産するミヤマカンスゲは、基部の鞘が光沢のある紫褐色で繊維状に分解しない。

■**分布** 県内：各地に点在し、低山地の林内に多く見られる。 県外：本州（福井県以西の日本海側）、九州（北部）。

■**保護上の留意点**：里山、山地の草地など身近な自然の保全管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：81.

執筆者：坂田成孝

ホスゲ カヤツリグサ科
Carex deweyana Schwein. subsp. *senanensis* (Ohwi) T.Koyama, comb. nud.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：—



氷ノ山 2015.7.4 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：本来は亜高山に産し、県内では氷ノ山のみ自生する。生育地は極めて限定され個体数もわずかである。近年のシカ食害で絶滅の縁にある。

■**特徴**：山地の草地に叢生する多年生草本。葉は有花茎より短い。有花茎は高さ 50 cm ほどで鋭い稜がある。花序は 5-9 個の無柄の小穂をまばらにつける。苞の葉身は下方 1-2 個が小穂より長い。小穂は雌雄性で淡緑色、長さ 1 cm 程度。雌鱗片は緑白色、果胞より少し短い。果胞は卵状披針形で扁平、長嘴で口部に 2 歯があり。柱頭が 2 岐する。日南町に生育するタカネマスキサは有花茎が鈍稜、苞の葉身が花序より著しく長く分布し、標高が 600 m ほどである点で区別できる。分布地の氷ノ山の草地はシカの食害がひどく下層植生が衰退していて、2017 年より生育の確認ができない。

■**分布** 県内：若桜町。 県外：本州（鳥取県以北の日本海側）。

■**保護上の留意点**：山地草原の自然植生の保護。ニホンジカの適正管理、シカ食害防止。

■**特記事項**：分布西限。

■**文献**：29, 42, 81.

執筆者：坂田成孝

オニスゲ カヤツリグサ科

Carex dickinsii Franch. et Sav.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



日南町 2021.7.6 / 撮影：藤原文子

■**選定理由**：県内では三朝町，南部町，日南町，日野町の湿地に生育している。自生地は少なく個体数も少ない。

■**特徴**：山地の湿地，ため池，用水路，たたら跡の湿地に群生するスゲ。匍匐枝をのびし群生する。有花茎は高さ 20–50 cm 内外。小穂が有花茎の上部に集まってつき，果胞が 10 mm ほどの大きさになるスゲの仲間は本種のみ。和名のオニスゲにふさわしい小穂である。

■**分布** 県内：三朝町，南部町，日南町，日野町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：小穂が目立つので湿地保護の目安となる。山間の湿地保全。

執筆：藤原文子

ウマスゲ カヤツリグサ科

Carex idzuroei Franch. et Sav.

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：—



米子市 2021.5.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：国内での分布は隔離的で中国地方の生育地は少ない。県内では 2021 年に生育が確認されたが，生育地，個体数とも僅かである。生育地は工事で失われる可能性がある。

■**特徴**：河川の氾濫原や湿地に生育する多年生草本で，匍匐枝を伸ばして群生する。有花茎は高さ 40–60 cm，葉は幅 4–8 mm。小穂は互いに離れてつき，苞の葉身は小穂よりも長い。雄小穂は線形で長さ 2–4 cm，雌小穂は 2–3 個で長さ 1.5–3 cm。柱頭は 3 岐。果胞は他の種に比べ大型で硬く壊れにくい。

■**分布** 県内：米子市。県外：本州（関東以西），四国，九州。

■**保護上の留意点**：河川工事や護岸工事からの生育地保護，配慮。

■**文献**：29.

執筆：矢田貝繁明

ヒロバスゲ カヤツリグサ科

Carex insanae Koidz. var. *insanae*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



鳥取市国府町 2020.5.20 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内の自生地は 1 地点のみで面積，個体数ともに少ない。ブナの伐採後，生育範囲が狭くなり個体数が減少している。シカの食害で絶滅のおそれがある。

■**特徴**：林下のやや湿った場所に叢生する多年生草本。基部の鞘は淡色。葉は濃緑色で幅 1 cm と広く有花茎より長い。有花茎は高さ 30 cm ほど伸びるものと，根元に短くつき匍匐する 2 型がある。果胞は長さ 5 mm 程度で有毛。県内に多産する葉幅の広いオクノカンスゲ（ハバビロスゲを含む）は葉の断面が M 字状で，谷間に群生し，有花茎は高さ 40 cm ほどで根元にはない。ヒロバスゲは，長く伸びる花茎と根元に匍匐する花茎の 2 形がそろふことはほとんどない。

■**分布** 県内：鳥取市国府町。県外：北海道，本州（日本海側），九州。

■**保護上の留意点**：管理者への理解促進，ニホンジカの適正管理，食害防止。

■**特記事項**：北方系で日本海側に多く見られ，県内の集団は分布上重要。

■**文献**：81.

執筆：坂田成孝

サンインヒエスゲ カヤツリグサ科
Carex jubozanensis J.Oda et A.Tanaka

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取市鷲峰山 2021.5.23 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：登山道沿いに生え、マツ林の衰退や人の踏みつけ、刈り払いによる減少が懸念される。

■**特徴**：山地林縁の陽光下に生育する多年生草本。長い匍匐枝を伸ばし疎生し、群落を形成する。葉は有花茎とほぼ同高、幅 5 mm 前後で平滑。有花茎は高さ 30 cm 程度。頂小穂は雄性で根棒状、2 cm あまりで褐色。側小穂は 1-3 個、果胞は狭卵形で長さ 7 mm ほど。県内の生育地は低山地マツ林の下層が茂る場所が代表的で、個体は多いが生育が悪く花茎が少なくなった場所やシカの食害で絶滅に近い場所もある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、用瀬町、鹿野町）、智頭町。県外：本州（福井県—鳥取県の日本海側）。

■**保護上の留意点**：山地マツ林の維持と伐採防止。登山道の維持作業時に注意。ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：2004 年に県内から新種として発表。鳥取市鹿野町が模式産地。

■**文献**：75, 81.

執筆者：坂田成孝

サツマスゲ カヤツリグサ科
Carex ligulata Nees ex Wight

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



鳥取市河原町 2020.10.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：南方系の種で、県内では常緑広葉樹林内に数カ所自生するのみ、個体数は少ない。採取されると絶滅するおそれが極めて高い。

■**特徴**：シイ、タブが多い常緑広葉樹林内に生育する多年生草本。苞の葉身に特徴があるが、花序がないときはイネ科植物と間違いやすい。有花茎は高さ 50 cm ほどになり、やや傾く。基部の鞘は葉鞘がなく紫褐色、匍匐枝はない。苞の上部の葉身が長くイネ科の茎葉のように見える。頂小穂は雄性で 1 個、長さ 3 cm 程度。側小葉は雌性、密に果胞をつけ柱状、果胞に毛が密生。類似のビロードスゲはブナ帯域、風化花崗岩の谷に群生し、根茎が横にはい上部に雄小穂が 2-3 個ある。県内数カ所しかなくあまり見ることはないかもしれない。

■**分布** 県内：鳥取市河原町、倉吉市、北栄町、琴浦町、大山町、江府町、日野町。県外：本州（関東以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：常緑広葉樹林の保護。採取防止。

■**文献**：11, 81.

執筆者：坂田成孝

ヤチカワズスゲ カヤツリグサ科
Carex omiana Franch. et Sav. var. *omiana*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



三朝町 2012.6.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では以前 2 カ所で確認されていたが、うち 1 カ所は環境変化で消滅。もう 1 カ所は確認できているが、山間溪流の環境悪化が懸念される。

■**特徴**：湿原や湿地に生える多年草。根茎はゆるく叢生する。基部の鞘は淡褐色—淡栗色。葉は有花茎より短く幅は 2 mm 程度。有花茎は無柄小穂を散生、高さ 50 cm 内外、小穂は雌雄性。果胞は基部は海綿状に肥厚し、卵状披針形で長さ 4 mm ほど、長嘴で口部に 2 歯がある。他のカワズスゲ類は県内では見られない。

■**分布** 県内：三朝町。県外：北海道、本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山間溪流の自然植生保護。

■**文献**：81.

執筆者：坂田成孝

オタルスゲ カヤツリグサ科

Carex otaruensis Franch. var. *otaruensis*

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



智頭町 2021.5.27 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：北方系の種で県内全域に分布するが、群落をつくることがほとんどなく、個体数は少ない。県内東部ではシカの食害で激減した。

■**特徴**：県内では山地の湿地，水湿地に叢生する多年生草本。基部の鞘は赤みを帯びた濃褐色で糸網がある。有花茎は高さ 50 cm 程度。頂小穂は雌性で線形，側小穂は雌性で長柄がある。雌鱗片は狭長楕円形で淡緑色。果胞は平滑で無脈。嘴はやや長い。和名は北海道小樽に由来。県内の平地から山地の溪畔に多産するヤマアゼスゲは株状に叢生し，基部の鞘が淡褐色，果胞は平滑で脈があり，嘴が急にとがる。

■**分布** 県内：若桜町，智頭町，関金町，江府町，南部町，日野町，日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：山地の湿地，水湿地の保護，ニホンジカの適正管理。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：81。

執筆：坂田成孝

ナガミヒメスゲ カヤツリグサ科

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudô var. *lanceata* (Kük.) Ohwi

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



氷ノ山 2017.6.14 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では氷ノ山山頂付近の岩場や尾根にだけ生育する。個体数もごく少ない。

■**特徴**：山地の岩場や尾根に叢生する多年生草本。ヒメスゲの変種で果胞の嘴が著しく長いもの。有花茎は 20 cm ほどのものが多く，小穂は上部にかたまってつく。県内の調査ではこれまでヒメスゲと区別されていなかった。ヒメスゲの特徴は基部の鞘が濃赤色，雌鱗片も赤みを帯びる。県内での生育地は，氷ノ山の山頂近く，標高 1400 m 以上の岩場と尾根に限られている。

■**分布** 県内：氷ノ山。県外：本州（東北—近畿）。

■**保護上の留意点**：高山地の岩場の自然植生の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：81。

執筆：坂田成孝

ヒメスゲ カヤツリグサ科

Carex oxyandra (Franch. et Sav.) Kudô var. *oxyandra*

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



烏ヶ山 2014.6.14 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では大山山系の山頂付近の岩場でのみ確認されている。自生地，個体数ともにごく少ない。

■**特徴**：山地の岩場に叢生する多年生草本。基部の鞘が濃赤色，雌鱗片も赤みを帯びる。有花茎は 20 cm ほどのものが多く，小穂は上部にかたまってつく。低地の草地に多産するアオスゲ類では基部の鞘は淡色—褐色，雌鱗片は淡緑色である。県内での生育地は，大山の標高 1300 m 以上の山頂尾根の岩場の割れ目に限られている。2012 年版改訂版の RDB では分布地に那岐山があげられていたが，誤同定であったことが後日判明した。

■**分布** 県内：大山山系。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：高山地の岩場の自然植生の保護。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

■**文献**：81。

執筆：坂田成孝

オオクグ カヤツリグサ科
Carex rugulosa Kük.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：準絶滅危惧 (NT)



米子水鳥公園 2010.5.13 /
撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：中海周辺では群生が見られるが、県内での分布は限られ護岸工事により狭められている。

■**特徴**：汽水域の湿地に生育する大型の多年生草本。米子水鳥公園周辺ではヨシ群落の下層にオオクグがみられる。高さ 60–80 cm。花期は 4–6 月。雄花穂は頂生し細く円柱形。雌花穂は下方に数個つく。シオクグによく似ているが、シオクグに比べて大型で、葉幅が 5–10 mm あることが特徴である。1997 年に中海の護岸工事により自生地が失われることとなり、米子水鳥公園に移植が実施された。

■**分布** 県内：米子市。県外：北海道，本州，九州。

■**保護上の留意点**：汽水域の湿地植性の保全。汽水域に面した地域で護岸工事をする際には、作業道とする休耕田や水路に生育している可能性があり注意が必要。

■**文献**：2, 49.

執筆者：神谷 要

シオクグ カヤツリグサ科
Carex scabrifolia Steud.

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
環境省：—



米子市 2015.5.11 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：県内では生育適地が少ないうえ、護岸工事で生育環境が改変されてきた。近年、自生地が開発されて生育が確認できなくなり、絶滅した可能性が高い。

■**特徴**：汽水域の湿地に生育する大型多年生草本。シオクグは海岸や河口の波浪の影響を受けないような場所に生育し、高さ 30–60 cm。花期は 4–6 月、雄花穂は頂生し細く円柱形である。雌花穂は下方に数個つく。オオクグによく似ているが、シオクグはより小型で葉の幅が 5 mm 以下であることが特徴。

■**分布** 県内：米子市。県外：全国：北海道，本州，四国，九州など塩性の湿地。

■**保護上の留意点**：汽水域の湿地植性の保全。汽水域に面した地域で湖岸工事をする際に、生育している可能性があり注意が必要。

■**特記事項**：米子水鳥公園周辺の中海沿岸に生育が知られていたが、現在確実な生育確認地はなくなった。

■**文献**：49.

執筆者：神谷 要

ダイセンアシボソスゲ カヤツリグサ科
Carex scita Maxim. var. *parvisquama* T.Koyama

鳥取県：絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧 I A 類 (CR)



大山 2018.6.10 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：1935 年に大山で採集され 1955 年に新変種として記載されたが、その後は目撃情報以外の確実な標本や写真がなく絶滅したものとされていた。2011 年に再発見された。大山の特産で生育個体数は極めて少ない。生育地は崩落地で生育条件はいちじるしく悪化している。

■**特徴**：大山山頂付近の草原やガレ場に生育する草丈 20–30 cm の多年生草本。葉は幅 3–4.5 mm，裏面に乳頭状突起を密布する。基部の鞘は濃赤紫色で繊維状に細裂する。頂小穂は雄性で長楕円形，側小穂は雌性楕円形，柄があり下垂する。果胞は雌鱗片より長く長さ 4–4.5 mm，幅広く楕円形で 5–6 本の細脈があり嘴はない。アシボソスゲが南方に隔離分布したものと考えられている。

■**分布** 県内：大山。県外：なし。

■**保護上の留意点**：生育地の環境保全対策は困難，厳重な採取防止。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種，鳥取県条例採取禁止指定種。

■**文献**：12, 29, 66.

執筆者：矢田貝繁明

オオカワズスゲ カヤツリグサ科

Carex stipata Muhl. ex Willd.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2017.6.16 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：本種の分布拡大には水鳥が重要な役割を果たしていると考えられ、分布地点が非常に少ない。中国地方では広島県のため池で確認されているのみで、鳥取県内の生育は貴重。

■**特徴**：湿地に群生する多年生草本。葉鞘の上部は膜質で横皺がある。有花茎は 50 cm 程度、3 稜形で著しくざらつく。花序は多数の小穂を円柱形状につける。小穂は雌雄性。果胞は広披針形で嘴が長く、縁はざらつき脈がある。日南町の湿地内で確認されているが個体数は少ない。山間の谷川にもわずかに確認されているが、環境悪化のため減少が著しい。

■**分布** 県内：日野町、日南町。 県外：北海道、本州（関東、中部以北）、広島県。

■**保護上の留意点**：山間の小さい湿地の保護。厳重な採取防止。

■**文献**：12.

執筆：矢田貝繁明

ヒトモトススキ カヤツリグサ科

Cladium jamaicense Crantz subsp. *chinense* (Nees) T.Koyama

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



米子水鳥公園 2007.7.21 / 撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：県内西部の海岸沿いに孤立して生育する。米子市の埋め立て地では管理方法が本種の生育状況を大きく左右するため注意が必要。

■**特徴**：海岸湿地に生育する大型の多年生草本。桿は叢生し、高さ 2 m に達する。葉は根元から多出し、桿の節からも葉をつける。葉は厚く辺縁や脈に鋭い鋸歯をもつためススキのように手を切りやすい。花期は 8-10 月、散房花序となる。果実は広楕円形。県内では大山町の海岸と米子市の埋め立て地の草地で自生が確認されている。

■**分布** 県内：大山町、米子市。 県外：本州（関東以西）、四国、九州、沖縄。

■**保護上の留意点**：海岸後背草地の維持と保護。

■**特記事項**：米子水鳥公園で群落の拡大がみられる。

■**文献**：49.

執筆：神谷 要

チャボイ カヤツリグサ科

Eleocharis parvula (Roem. et Schult.) Link ex Bluff, Nees et Schauer

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



米子水鳥公園 2016.7.8 / 撮影：公益財団法人中海水鳥国際交流基金財団

■**選定理由**：県内での分布は極めて限定され個体数も少ない。個体が見つからなくなっており、絶滅の危険性はきわめて高い。

■**特徴**：希少な湿性植物で海や汽水域に隣接する湿地や休耕田に生育する多年生草本。砂泥の堆積した湿地にマット状に広がる。高さ 3-5 cm でやや太くてやわらかく、背の低いマツバイのように見える。茎頂に一つだけ小穂をつける。株を抜くと小さな塊茎がついている。

■**分布** 県内：米子市。 県外：四国、九州に希。

■**保護上の留意点**：微細な植物で生育を見逃している可能性が高い。沿岸部の休耕田・湿地を改変する際には留意が必要。

■**特記事項**：米子水鳥公園では、2018 年以降は生育が見られない。

執筆：神谷 要

ハタバカンガレイ カヤツリグサ科
Schoenoplectus gemmifer C.Sato, T.Maeda et Uchino

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：絶滅危惧II類 (VU)



伯耆町 2021.6.26 / 撮影：赤井伸江

- 選定理由**：自生地が限定され、生育条件も限られている。
- 特徴**：湧水のある河川や水路、ため池に生育する多年生の沈水または抽水植物。県内では山からの湧水が入るため池に生育が確認されている。抽水状態では多数の秆が束生し、秆の断面は三角形、高さ 40–100 cm。花期は 7–10 月で、無柄の小穂が集まって頭状となり、苞葉は有花茎に続き斜上または直立する。頭柱が 2 岐（稀に 3 岐）であることでカンガレイから識別できる。苞葉基部にしばしば無性芽が形成され、水中ではリボン状の水中葉、気中では 3 稜形となる。本種は 2004 年に新種記載されるまでカンガレイと区別されていなかったため、県内の生育調査が不十分である。
- 分布** 県内：伯耆町。県外：本州関東以西、四国、九州。
- 保護上の留意点**：ため池の消失や陸地化により消失する可能性がある。カンガレイと混同されている可能性があり、生育調査が必要。
- 文献**：26。

執筆：赤井伸江

コマツカサススキ カヤツリグサ科
Scirpus fuirenooides Maxim.

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
環境省：—



日南町 2021.9.4 / 撮影：浜田幸夫

- 選定理由**：湿地に自生し、県内では日野郡内の廃ため池数カ所で自生が確認される。すぐに絶滅する可能性は低いが、孤立しており希少性が高い。
- 特徴**：日当たりのよい廃ため池、耕作放棄水田などに自生する多年生草本。ややまばらに群生する。有花茎は硬く断面は鈍い三稜形、節が 4–5 個あり高さ 80–120 cm。葉は線形で硬く幅 3–5 mm、縁はざらつく。花期は 8–10 月。側生する 1–2 個の花穂と三つに分岐した頂生の 5–6 個の花穂が散放状となる。果実は 10–30 個が集まって球状となり、完熟すると褐色になる。
- 分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、国府町）、南部町、日野町、日南町。県外：本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：県内では、使用されていないため池や小規模湿地の堆積部分に生育している。管理者に周知を図って湿地の重要性を認識してもらい、管理や改修時には保全を図る配慮が必要。

執筆：浜田幸夫

ミヤマヌカボ イネ科
Agrostis flaccida Hack.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
環境省：—



若桜町 2012.8.6 / 撮影：坂田成孝

- 選定理由**：県内では氷ノ山山系と大山山系に見られるのみ。台風などで生育する岩崖が崩落し絶滅する危険性がある。
- 特徴**：県内では高山地の岩上に生える多年生植物。茎は細く、束生して高さ 20 cm 前後になる。葉は長さ 5 cm ほど、内側に巻いて糸状になる。花期は 7–8 月。長さ 5 cm ほどの直立した円錐花序をつける。枝の多くは双生。小穂はまばらについて長さ 3 mm ほど、1 小花からなり黒紫色を帯びる。包穎の竜骨の上部に剛毛がある。護穎は半透明膜質で、背面から長さ 4 mm ほどのねじれた芒が出る。近年の台風で生育地の岩崖が崩れて一部の個体が消失した。
- 分布** 県内：若桜町、大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。
- 保護上の留意点**：生育地の環境保全対策は困難、厳重な採取防止。
- 特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆：坂田成孝

ヒロハノコヌカグサ イネ科

Aniselytron treutleri (Kunze) Soják var. *japonicum* (Hack.) N.X.Zhao

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



氷ノ山 2017.8.27 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では東部のブナ帯に点在するが、生育地の個体数は少ない。

■**特徴**：ブナ帯の溪谷に生える多年生草本。茎は軟らかく高さ1 m程度になり無毛。葉はうすく、長さ25 cm前後、両端は細くなって線状披針形。花期は7-8月。円錐花序は長さ20 cm前後、枝は半輪生で、主軸から直角に出て小さな小穂を枝に圧着。小穂には1小花がつく。包穎は膜質で小穂より短い。第一包穎は第二包穎の半長、竜骨上に小刺針が並んでざらつく。近年は大雨で溪谷の崩落が生じて生育地が荒廃し減少傾向。

■**分布** 県内：若桜町、智頭町。県外：本州（中部以西の深山）。

■**保護上の留意点**：落葉広葉樹林の保護、保全。

執筆者：坂田成孝

タカネコウボウ イネ科

Anthoxanthum horsfieldii (Kunth ex Benn.) Mez ex Reeder var. *japonicum* (Maxim.) Veldkamp

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



大山 2020.7.16 / 撮影：矢田貝繁明

■**選定理由**：生育地は中国地方では大山のみ。生育範囲は狭く生育個体数も限られている。しかし生育地は風衝草原で、生育環境の変化は少ない。

■**特徴**：ブナ帯—亜高山帯の草原に生育する多年生草本。稈は少数が束生し高さ40 cm前後。葉は扁平で長さ10-20 cm、幅4-10 mm。小穂はまばらにつきやや扁平。花期は6-7月。2012年に大山の標高1400 m付近の風衝草原で生育が初確認された。

■**分布** 県内：大山。県外：本州（中部以北）、四国。

■**保護上の留意点**：生育草原の維持。

■**文献**：66。

執筆者：矢田貝繁明

チョウセンガリヤス イネ科

Cleistogenes hackelii (Honda) Honda

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町 2021.9.15 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：海岸の岩崖や低山地の乾いた場所に生育するが、県内では自生確認が少ない。今後の調査で生育範囲の確認が必要である。

■**特徴**：海岸の岩崖や低山地の乾燥した場所に生育する多年生草本。茎は細く直立、叢生し高さ1 mほどになる。葉は披針形で長さ10 cmまで、葉鞘とともにまばらな長毛があるのが特徴。葉舌は短く縁に毛がある。花期は8-9月。花序は円錐状、小穂は2-4個、芒は3 mm内外。海岸の岩場や里山の林縁で今後の調査が必要である。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、青谷町）。県外：本州、四国、九州。

■**保護上の留意点**：海岸近くの低山地の自然植生保護。

執筆者：坂田成孝

ハイチゴザサ イネ科
Isachne nipponensis Ohwi

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



鳥取市栗谷 2021.9.10 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内では低山地の湿った山林下に見られるが、シカ食害の影響を受けている。県内の分布確認地が少なく、今後の状況確認が必要である。

■**特徴**：低山地の湿った山林下に生育する小型の多年生草本。茎は長く匍匐し、節部から根を出す。上部の節から直立した茎を出し、高さは10 cm 前後になる。葉は広披針形で長さ10 cm ほど、両面に立った毛がまばらに生える。葉鞘は長さ10 mm 前後で縁に白毛が生える。花序は円錐形、長さ5 cm まで、ほぼ同形同大の2小花がつく。小穂は長楕円形で淡緑色、長さ1.5 cm。自生確認地が少なく、今後の調査が必要である。県内にふつうに見られるチゴザサは直立し小穂の柄に帯状の腺がある。ハイチゴザサは花序が小さく2小花がつくのが特徴。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市（旧市、用瀬町）。県外：本州（南西部）四国、九州。

■**保護上の留意点**：生育地の森林および低山地山林内の湿った環境の維持。ニホンジカの適正管理。

執筆者：坂田成孝

アイアシ イネ科
Phacelurus latifolius (Steud.) Ohwi

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



大山町 2021.9.19 / 撮影：浜田幸夫

■**選定理由**：県内での自生地は大山町の1カ所のみ。自生地での生育は良好だが局在性が高く継続的な保全が必要である。

■**特徴**：海岸の塩性湿地に生育し、高さ1.5 m になる大型の多年生草本。地表近くを横走る根茎は短い鱗片に覆われる。茎は硬く根元直径は7 mm ほど。葉は粉をまぶしたような緑白色で長さ20–40 cm、幅1–4 cm の広線形。やや厚みがあり中央脈は裏面に突出。葉縁に鋭鋸歯が並び基部は鞘状。花穂は散房花序で斜上し長さ10–25 cm。3–12本がつき掌状に開く。花期は6–10月。大山町の自生地では海岸そばの潮風を受ける段丘斜面に幅5 m、長さ150 m にわたり群生。時には波しぶきが群落に降り注ぐ環境。採取・盗掘の心配はないが、海岸整備事業等で刈り払われるおそれがある。

■**分布** 県内：大山町。県外：北海道、本州、四国、九州。東アジア。

■**保護上の留意点**：地元に希少性を周知し、保全体制をつくる必要がある。

■**特記事項**：2021年8月29日には花穂はなく葉も半枯れ状態だった。出穂時の高温乾燥が影響したようだ。来年の回復に期待したい。国立・国定公園採取禁止指定種。

執筆者：浜田幸夫

タキキビ イネ科
Phaenosperma globosum Munro ex Benth.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



若桜町 2014.8.29 / 撮影：坂田成孝

■**選定理由**：県内での生育地は限られ個体数も少ない。シカの食害による影響で減少している。

■**特徴**：山地のやや乾燥した崖地に生える大型の多年生草本。根茎は短く茎は平滑、無毛で束生する。葉は狭披針形で基部は細く無毛、両面と縁はざらつき、表面は紛白色を帯びる。根生葉は長柄で葉舌は鋭形。葉鞘は平滑、無毛。花期は8–10月。円錐状花序で長さ40 cm 前後。小穂は楕円形で1小花、長さ4 mm 程度、柄は短い。果実は球形で径3 mm ほど、下向きに垂れる。1属1種。岩崖の下部に生えるためシカの食害があり要注意。

■**分布** 県内：若桜町。県外：本州（中部以西）、四国、九州。

■**保護上の留意点**：山地岩崖地の自然植生保護。ニホンジカの適正管理。

執筆者：坂田成孝

ケナシカシダザサ イネ科

Sasa oshidensis Makino et Uchida subsp. *glabra* (Koidz.) Sad.Suzuki

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町 2021.4.15 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：生育地は全国的に限られる。県内では現在のところ岩美町の海岸段丘面で確認されている。

■**特徴**：桿は高さ 50 cm，直径 5 mm で基部および上部で分枝する。桿鞘は有毛だが，葉鞘は無毛。葉は枝先に 2, 3 枚をつける。葉の長さは 20 cm，幅 3 cm 前後，紙状膜質で両面無毛。放射状の肩毛がある。本種を含む種群として提唱されているスズザサ属 (*Neosasamorpha*，スズタケ属とササ属の推定属間雑種分類群) 植物の分布は太平洋側に偏るので，この点からは鳥取県でのケナシカシダザサの確認は貴重な事例である。

■**分布** 県内：岩美町。県外：九州北部から西南日本にかけてまれ。

■**保護上の留意点**：生育地の保全。

■**文献**：41.

執筆：前田雄一

オニグジョウシノ イネ科

Sasaella ikegamii (Nakai) Sad.Suzuki

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：—



岩美町 2020.11.24 / 撮影：前田雄一

■**選定理由**：全国的に稀少。県内では，現在のところ岩美町の神社社叢で細々と生育している。

■**特徴**：桿は斜上し，高さ 70 cm，直径 4 mm。基部付近の節からは外鞘的に分枝し，節上部では移譲的に分枝する。桿鞘には毛が密生する。本種の生育する社叢はシイ，タブノキ等の常緑広葉樹林であり，林内は薄暗い。このため，生育地は相対的に光環境のよい林縁の小面積地に限られる。当該神社には，桿鞘に毛が密生するササ属のイヌトクガワザサも生育している。

■**分布** 県内：岩美町。県外：本州（北陸，滋賀県，栃木県）にまれ。

■**保護上の留意点**：社叢・林縁環境の保護管理。

■**文献**：41.

執筆：前田雄一

ヒロハヘビノボラズ メギ科

Berberis amurensis Rupr.

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：—



日南町 2021.5.6 / 撮影：坪倉 敏

■**選定理由**：県内では局所的に生育するのみで，他個体群から孤立。個体数も少ないため，個体群の持続に懸念がある。

■**特徴**：山地の蛇紋岩地帯に生育する落葉低木。高さ 1-3 m，枝は多分枝，針状の刺がある。葉は互生，短枝に叢生し倒卵形か長楕円形で長さ 3-10 cm，幅 1.5-4.5 cm。葉は刺毛状の鋸歯が全縁にあり他種より葉が広い。花期は 5-6 月。短枝の先にやや垂れぎみの総状花序を出し数個の黄色い花をつける。萼，花弁，雄しべは各 6 個。果実は赤熟し楕円形で 7-10 mm。和名は針刺の多い枝をへびも登らないだろうと例えたもの。

■**分布** 県内：日南町。県外：北海道，本州，四国，九州。

■**保護上の留意点**：自生地一帯の自然植生の保護，採取防止。

■**特記事項**：日南町の蛇紋岩地帯が県内唯一の生育地。

■**文献**：22.

執筆：坪倉 敏・浜田幸夫